

令和 6 年度

竜王町教育委員会の権限に属する事務の  
管理および執行状況の点検および評価に  
かかる報告書

竜王町教育委員会

令和 6 年 8 月 23 日

## 目 次

総 括	．．．．．	P 1
竜王町事務点検評価に係る一次評価	．．．．．	P 8
竜王町事務点検評価に係る二次評価	．．．．．	P 34
令和6年度の事務点検・評価を踏まえた 重点改善項目と主な改善点	．．．．．	P 50

令和6年度 竜王町教育委員会の権限に属する事務の管理および執行状況の  
点検および評価にかかる報告書

竜王町教育委員会

教育長 甲津 和寿

1 はじめに

竜王町教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、毎年5月から8月の間に前年度における教育委員会の権限に属する事務の管理および執行状況の点検および評価を実施しています。

そして、その点検および評価結果をとりまとめ、9月定例議会中に議会に報告するとともに、町ホームページ等を活用して住民の皆様に公表するとの方針を定めています。

このことを踏まえ、令和5年度教育委員会活動をはじめとする「令和5年度竜王町教育行政基本方針」に基づく事務について、点検および評価を実施しましたので、ここに報告いたします。

2 具体的な取組の経過

(1) 竜王町教育委員会事務点検および評価要領に定める一次評価の実施説明会

教育委員会事務局所属長対象 5月9日（木）開催

- ・一次評価および二次評価等の要領説明と一次評価についての説明
- ・竜王町教育委員会事務点検および評価要領の定めにより、教育委員会の各部署において書類作成と一次評価を実施（令和5年度教育行政基本方針の項目ごとに評価）

期間：5月9日（木）～5月28日（火）

(2) 一次評価の集約

- ・教育委員会各部署での一次評価について、教育総務課にて集約を行い、一次評価の全体調整を実施

期間：5月29日（水）～6月14日（金）

(3) 5月定例教育委員会 5月31日（金）開催

- ・令和6年度 事務評価にかかる事務日程の説明

- (4) 6月定例教育委員会 6月26日(水)開催
- ・一次評価(案)の結果概要説明と一次評価に対する意見交換の上、教育委員会として一次評価の精査
- (5) 教育委員による一次評価にかかる意見の集約
- ・一次評価に対する意見集約を行う。
- 期間：6月26日(水)～7月5日(金)
- (6) 二次評価のための資料送付 7月11日(木)
- ・評価委員4名に対して、「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」および「教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務」の3項目にかかる一次評価結果(案)を送付し、個々の評価委員から二次評価にかかる意見を事前にまとめていただくよう依頼
- (7) 第1回竜王町教育委員会事務評価委員会 7月17日(水)開催
- ・委員1名が辞任されたため、新たに委員1名を任命しました。
  - ・評価委員名簿(任期：令和5年4月1日から2年間)

氏名	所属等
大谷五十二	小学校英語教育学会(JES)理事 びわこ学院大学非常勤講師
飯村 悟	近江八幡・竜王少年補導委員会委員 竜王町社会教育委員の会議長
今宿綾子	前日野町教育委員会教育長
田中 満	国立大学法人滋賀大学教育学部准教授

- ・一次評価(案)に対する各所属長からの説明およびそれに対する質疑応答、併せて評価委員による一次評価(案)に対する意見について協議。その後、個々の評価委員から二次評価にかかる項目別評価を記入していただくように依頼
- (8) 二次評価の集約
- ・4名の評価委員から寄せられた二次評価にかかる項目別の評価を評価委員会委員長と協議検討し、二次評価総括(案)としてまとめる。
- 期間：7月25日(木)～7月31日(水)
- (9) 二次評価決定のための資料送付 8月1日(木)
- ・評価委員4名に対して、二次評価総括(案)を送付し、二次評価決定にかかる意見

を事前にまとめていただくよう依頼

(10) 第2回竜王町教育委員会事務評価委員会 8月7日(水)開催

・二次評価総括(案)について協議していただき、評価委員としての二次評価を決定

(11) 8月定例教育委員会 8月23日(金)開催

・評価委員からの「令和6年度竜王町教育委員会事務評価にかかる二次評価について」の報告を受け、議会への報告要領および住民への公表方法等について審議決定

・9月定例議会の教育民生常任委員会において説明することについて承認を得る。

### 3 評価を終えて

事務事業評価に係る外部委員については、1名の方が辞任されたため新たに1名の方をお願いをし、昨年度から引き続きお願いしている3名の方と合わせて、4名の方をお願いしました。

評価の実施については、「竜王町教育委員会事務点検および評価要領」に従い、教育委員会の承認を経て実施しました。

一次評価は、昨年度と同様S評価を最上位として位置付け、以下A、B、C、Dで評価しました。具体的に掲げた目標数値が達成できたか、計画していた事業等にしっかり取り組めたかについて評価のレベル感に対するベクトルを合わせて評価するように内部協議を重ねてきました。

また、模範となる取組や数値として結果が出ているようであればS評価にする、さらには、A評価であっても更なる高みをめざす項目については、工夫や改善点を記載するとともにB評価以下とした項目については、検討すべき改善点等を記載するように努めました。

その結果、今年度Sと一次評価した項目は、以下の3項目でした。

#### ① 家庭・地域との連携・協働による学校教育の推進

各校園の運営協議会と地域学校協働本部とが連携した取組が進んだ。竜王小学校では、授業等のボランティアや丸付けを行う「はなまる先生」などの支援が実施され、竜王西小学校では、「ふるさと学習推進プロジェクト」が自然や歴史、地理などの部会ごとに計画・実施され、竜王中学校では、学校運営協議会による「土曜塾」への参画や職業体験による企業との連携支援、「早寝早起き朝ごはん推進校事業」と呼称した取組が実施され、こども園では、小学校のふるさと学習につながるよう「地域

のお散歩マップ」が作成された。

② 地域学校協働本部と学校運営協議会の連携による人材育成と未来の学校づくり・地域づくり

地域学校協働本部として他市町にはない仕組みであり、統括地域学校協働活動推進員を核として、地域学校協働推進員（5人）が4校園の学校運営協議会（コミュニティスクール）の委員に加わることで、協働本部と学校運営協議会が相互連携を図り、主体的な活動に取り組んだ。

③ 文化芸術活動の奨励と振興

第40回を数える文化祭を盛大に実施し、6,000人を超える来場者とともに大いに盛り上がった。また、22社のお店や事業所、企業から協賛をいただくことができた。

更に、公民館交流フロア展示ケースを年間通して、月替わりで多種多様な文化芸術作品や竜王町の文化財等の展示を行い、町民の文化芸術と文化財への関心を高め、知識・教養の向上に努めた。

一次評価のS評価は3項目、率にして6%、A評価は26項目、率にして50%、B評価は23項目、率にして44%、C、D評価はありませんでした。

以上のようなことを踏まえて評価委員の皆様からは、適切に一次評価ができていると認めていただいた上で、二次評価をしていただきました。

二次評価は、4名の評価委員の皆様にご一次評価を踏まえ、一次評価と同じ小項目ごとに評価していただくこととし、2回にわたっての協議を踏まえ、最終的に二次評価を決定していただきました。

二次評価をしていただいた結果、S評価は3項目、率にして6%、A評価は29項目、率にして56%、B評価が20項目、率にして38%、C、D評価はありませんでした。

今後に向けて、評価委員から以下の意見や提言をいただきました。

- ① S評価の項目においても、裾野を広げるような取組を行うこと。
- ② 竜王町独自の取組は素晴らしいことから、今後も継続して取組まれない。
- ③ 引き続き竜王町の規模を活かした竜王町らしい取組を進められたい。
- ④ 竜王町の子どもたちの主体性、積極性を育む取組や働きかけに注力されたい。

今回の一次評価および二次評価の結果や評価委員からの意見、提言について、すぐにも取り組めることについては、早速、「令和6年度の事務点検・評価を踏まえた重点改

善項目と主な改善点」として項目別にまとめるとともに、下半期さらには来年度の取組にもしっかりと生かして行きたいと思えます。

結びに、本点検および評価をP D C Aサイクルの重要なチェック（評価）の機会と捉え、竜王町教育の更なる充実、発展をめざしてアクション（改善）に努め、「キラリと光る教育で竜王の人づくり・まちづくり」に邁進してまいりたいと思えます。



令和 6 年度

竜王町事務点検評価に係る一次評価

令和6年度 令和5年度事業にかかる竜王町教育委員会事務点検および評価シート

- S：的確な事業実施がなされ、非常に大きな成果があがっているもの  
 A：適切な事業実施がなされ、十分な成果があがっているもの  
 B：成果としては良好なものが得られているが、更なる充実が望まれるもの  
 C：一定の成果をあげているものの、課題もあり検討を加え努力すべきもの  
 D：成果が乏しく抜本的な見直しとともに、改善が必要なもの

一次評価

教育委員会の活動			
項目	小項目	評価	点検・評価（記述）
1 教育委員会の会議	(1) 会議の回数	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度は、規則に定めるとおり毎月1回、計12回の定例会を開催できた。また、臨時会も1回開催した。</li> <li>4校園を訪問し、全学級授業、保育の参観、校園長等からの説明を受けるとともに、様々な視点から意見交換を行った。</li> <li>その他、各種式典や行事・研修会に出席できた。</li> </ul>
	(2) 会議の運営上の工夫	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>付議内容を事前に周知するとともに必要に応じて会議資料を事前に配付するように努めた。今後もより円滑な会議運営に資するための準備に努める。</li> </ul>
2 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	(3) 傍聴者の状況	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>町のホームページを活用し開催日等を周知し、8月定例会では2名の傍聴者があった。今後において、傍聴してもらえするための周知・啓発等の工夫検討を行う必要がある。</li> </ul>
	(4) 公開・広報・公聴	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開、公聴については、会議の開催日、場所を町ホームページに掲載し、開かれた委員会づくりに努めた。</li> <li>視察受け入れ時等に教育行政基本方針を配付するとともに町ホームページにも掲載し、年間を通して教育委員会の活動を広く周知できた。</li> <li>教育委員会の事務点検評価を町ホームページに掲載し教育の方針や成果・課題等を広く住民に周知できた。</li> </ul>
3 教育委員会と事務局との連携	(5) 委員と事務局との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>定例会に加え委員と事務局は、随時連絡を取り合い情報共有も含めた連携をとりながら円滑な委員活動に努められた。</li> </ul>
4 教育委員会と首長との連携	(6) 総合教育会議の開催	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>町長から教育長に事務委任を受ける中、年3回の総合教育会議を開催した。</li> <li>年間を通じて『「わが町におけるあるべき家庭教育の姿、また、その支援のあり方」～学校、家庭、地域、そして行政の連携とは～』をテーマとし、会議の継続性・発展性をより充実させることに努めた。</li> </ul> <p>第1回 ①教育大綱について（令和5年度教育行政基本方針について）                  ②テーマ設定とその理由および年間計画について                  ③学校園における配慮や支援を要する子の状況と支援を要する家庭の状況について                  ④講話</p>

			滋賀県スクールソーシャルワーカー スーパーバイザー 社会福祉士 上村文子氏 第2回 ①訪問型（アウトリーチ）家庭教育支援等の 取組について ②「子どもまんなか社会づくり」に向けて大 切にしたいこと 第3回 ①子どもWEBアンケート結果から見える子ど もの実態について 子育て支援に関するニーズ調査結果 ②今後に向けて行政（福祉分野）と教育委員 会の子どもまんなか社会への取組について 児童虐待の現状報告 家庭教育支援の現状
5 教育委員の自 己研修	(7) 研修会の 参加状況	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教育委員会や県町村教育委員会連絡協議会主催の研修 会に参加し、最新の話題から学ぶことで求められる教育 委員会活動をめざし研鑽に努めた。</li> <li>・コロナ禍での研修会となったため、ZOOM会議での参加も 活用し積極的に情報収集することで、国や県の動向を町 の教育行政に反映するよう努めた。</li> </ul>
6 学校および教 育施設に対する 支援・条件整備	(8) 学校訪問	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとに各校園の訪問を計画し、各校園の園児、児童、 生徒の状況把握に努めた。</li> <li>・各期の訪問等は、次のテーマを設定し、意見交換を通し て各校の自主性を支援し教職員が意欲的に取り組めるよ う助言を行った。</li> <li>・3学期は、下記のテーマと併せて可能な範囲で委員と管 理職以外の教職員との懇談を行った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>1 学期：園児、児童、生徒の状況把握と各校園の経営 管理計画について意見交換</li> <li>2 学期：竜王中学校でのチャレンジウィーク発表会、 竜王小学校および竜王西小学校での自主公開 アピール事業にかかる研究会・講演会、竜王 こども園での秋まつりに出席した。</li> <li>3 学期：各校園の評価を踏まえた今年度の成果と次年 度に向けて意見交換</li> </ul> </li> </ul>
	(9) 所管施設 の訪問	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食センターについては、食品衛生上、調理室およ びアレルギー対応調理室等に入ることはできないが、学 校給食運営委員会等に委員が出席し、学校給食の現状把 握に努めた。</li> </ul>

教育委員会が管理・執行する事務			
項 目	小項目	評価	点検・評価（記述）
1	教育行政の運営に関する基 本方針を定めること。（教育大 綱を定めること。）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育大綱に代わるものとして、毎年度の教育行政基本方 針を充てることを第1回総合教育会議にて確認した。</li> <li>・外部評価委員からの評価、分析を踏まえた事務点検評価 の結果や事業指標の到達度に基づき、教育行政基本方針 が策定できた。</li> <li>・写真や模式図を活用するなどして見やすく分かりやすい 基本方針が策定できた。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAサイクルを意識し、毎年、評価・改善・実施を繰り返すことにより、より一層の充実に努めた。</li> </ul>
2 教育委員会規則および規程を制定し、または改廃すること。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>所管する各種規則等について、現況に合った法令改正等に伴う所要の整備を行った。(規則：改正1件)</li> </ul>
3 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育施策に関して必要な事項については、議会への上程前に教育委員に理解を得るための詳細説明と意見を求めることができた。</li> </ul>
4 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、または廃止すること。		<ul style="list-style-type: none"> <li>特に新たな設置や廃止をする事項はなかった。</li> </ul>
5 事務局および教育機関の長の任免その他に関すること。(県費職員は除く)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅延することなく適切に実施できた。</li> </ul>
6 県費負担に係る校長の任免・内申(教育長専決事項)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅延することなく適切に実施できた。</li> </ul>
7 県費教職員の人事の内申に関すること。(教育長専決事項)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長の具申のもと、学校運営の状況や課題、個々の教職員の適性などを踏まえた人事異動の内申を行い、適切な人事異動ができた。</li> </ul>
8 教委所管の各種委員会の委員の任免・委嘱	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>所管の各種委員は、知見、経験、実績を踏まえて任命および委嘱を行い、適切に各種事業活動の展開ができた。</li> </ul>
9 教科用図書の採択の決定に関すること。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度から使用の小学校級教科用図書および小中学校特別支援学級の一般図書の採択にあたり、5月から滋賀県第3地区において教科用図書選定協議会を設け、適正に調査研究を行った調査資料を基に、教育委員会において採択した。</li> </ul>
10 通学区域を設定、または解除すること。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心核整備事業に係る道路建設が着工されたため、岡屋地区、小口地区、薬師地区、松が丘地区の児童、生徒に対する通学路について一部変更を行った。</li> </ul>
11 請願、陳情、異議申し立てに関すること。		<ul style="list-style-type: none"> <li>請願、陳情、異議申立への対応が必要な事項はなかった。</li> </ul>

教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務 (教育行政基本方針の重点目標、重点施策に基づく事務)			
項目	小項目	評価	点検・評価(記述)
1 たくましく生き抜く力を育む学校教育の推進	(1) 確かな学力を育む教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>完全35人以下学級の実現や少人数指導を実施することで、児童、生徒の学力面、生徒指導面できめ細やかな教育が実現できた。</li> <li>令和5年度の全国学力・学習状況調査について、小学校6年生は、算数で県および全国平均を上回り、国語は全国平均をわずかに下回った。中学校3年生は、国語、数学、英語ともに県および全国平均を下回る結果となった。この結果を受け特に中学校では授業改善に注力するとともに英語の授業力向上に向けた研修や小中学校の英語教育部会(E部会)での研究活動の充実に努めた。全国学力・学習状況調査と同時期に実施した総合学力調査(国語・算数・数学)については、対象となった小学2年生から中学2年生までのすべての学年で、各学年で設定した目標値を4ポイントから13ポイント超える結果となった。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・両小学校においては、「徹底反復学習（竜王小学校：竜チャレ、竜王西小学校：脳トレ）」に取り組み、「子どもたちの集中力の育成と脳の活性化」をめざしながら、基礎基本の力の定着に全校一丸となって取り組んだ。</li> <li>・5月17日には竜王小学校、6月21日には竜王西小学校において、元岐阜市立梅林小学校長で現本巣市立真桑幼稚園長の堀江秀樹氏を講師に招き、公開研修会を行った。</li> <li>・10月と1月に両小学校において徹底反復学習の効果を測定した。その結果、漢字の習熟度の平均が、20ポイント中13.9ポイントから15.4ポイントへと1.5ポイント上昇したが、目標正答率は90%前後であるため引き続き指導して行く必要がある。また、100マス計算（2分以内の達成率）の平均は、55ポイントから61.5ポイントへと6.5ポイント上昇した。目標とする80%には届かなかったものの改善傾向にあり、結果を踏まえて引き続き学校と連携して取組の充実を図る。</li> </ul>
	(2) 社会の変化を見据えた新しい学びの推進	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町事業「幼小中系統的英語教育推進事業」および県教育委員会指定の「小学校英語パイオニアプロジェクト事業」を受け、小中学校教員が合同で小中における授業の指導案を検討し、竜王こども園も含めてそれぞれの保育・授業の様子を参観し、意見交流を行うなど連携を深めることができた。また、小学校高学年の英語科および中学年の外国語活動のカリキュラムの充実と、中学校英語科の4技能の総合的な育成や言語活動の高度化について、関西大学の今井裕之教授や県教育委員会の指導主事を講師に招いて授業研究会を実施した。</li> <li>・小学校英語専科教員やALT、JTEとの連携による小学校英語科および外国語活動、中学校英語科や郡内学校との連携による授業改善に努めた。</li> <li>・8月26日に第12回竜王町子ども英語スピーチ大会を開催した。小学生12人、中学生6人の応募があった。どの児童生徒も英文を暗唱し、発音や英語特有のリズム等を意識しながらスピーチをすることができた。また、大会1週間前からALTやJTE、大学生・社会人2人、高校生1人が講師となって練習会を開催するなど、地域の人材を発掘し、多大な協力を得ながら児童生徒の英語力の向上に努めた。当日のイベントのみに終わらず取組過程で参加児童、生徒が自らの成長を実感し、英語に更なる興味関心を持つことができる環境づくりをすることができた。</li> <li>・10月21日の午前に竜王小学校希望児童42人、午後には竜王西小学校希望児童12人の参加により「ワールドツアーin竜王（イングリッシュキャンプ2023）」を開催した。キャンプには初めて中学生ボランティア5人が参加し、ALTと協力して児童の活動の支援にあたるなど小中で連携した取組ができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○参加児童のアンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントは楽しかったですか？ 強肯定72%（肯定88%）</li> <li>・また参加したいですか？ 強肯定72%（肯定80%）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

		<p>○参加児童の感想</p> <p>「もっと英語を勉強して、コミュニケーションをとり たい。」</p> <p>「本当に楽しい最高の一日になりました。」</p> <p>「わかる英語も話せる英語も増えてうれしかった。 (中学生ボランティア)」</p> <p>「来年も参加して、たくさんの先生方や(小学生の) 子ども達と交流したい。(中学生)」等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に両小学校6年生を対象に実施した「幼小中英語学習に関わるアンケート」において、「あなたは英語が好きですか」の項目で「とても思う」の肯定的回答が20%あり、目標値の20ポイントを前年度同様に上回った。目標値に対して、より正確な回答を得るために、アンケートの設問等を工夫して行きたい。</li> <li>・中学校のチャレンジウィークについては、令和5年度は計画どおり実施できた。実施にあたっては実行委員会を組織し、多くの事業所や店舗の協力を得て計画を進めるとともに、町や商工会、学校運営協議会等と連携を密にして、新しい協力企業の発掘などに取り組んだ。面接練習やマナー講座、企業を招いての講話などの学習を行い各生徒が発表活動を行った。勤労体験後に行った生徒アンケートでは、「学習に前向きに取り組んでいる」と回答した生徒が81%に、また、「不得意なことや苦手なことでも最後までやり通している」と回答した生徒が62%に伸びるなど、勤労体験をきっかけとして学習に意欲的に取り組もうとする生徒の割合が目標値の72%を超えた。</li> <li>・GIGAスクール構想に基づく教職員のICT活用能力の向上と授業改善の推進を目的に、学校教育課が中心となって各校のICT推進リーダーを年7回招集し、各校の連絡調整と校内研修に向けた情報交換を重ねた。また、タブレット端末を用いたミニ授業研修を各校で行い検証を重ねた。こうした取組の結果、現在は小学校の高学年において総合的な学習の時間にタブレット端末を使って、自分の調べたい情報を素早く収集したり、動画や写真の編集アプリを使ってパワーポイントなどでプレゼンテーションの資料を作ったりすることなどが行えるようになってきている。今後は児童、生徒が自身の学習履歴や成果物をタブレットに保存・蓄積し、既習の内容を瞬時に取り出して新たな課題解決に活用する能力の育成や友達と意見を交流して新たな発見に結び付ける対話的な学習においてICT機器の活用の充実をめざす。それを踏まえて個別最適な学習や協働的な学習等、授業改善をさらに進めて行く必要がある。</li> <li>・7月6日に本町のI部会および学校教育課員がICT活用に実績のある草津市立の小中学校を訪問し、先進地研修を行った。研修では特に授業におけるタブレット端末の効果的な活用について学ぶことができた。</li> </ul>
--	--	---

	<p>(3) 豊かな心 ・規範意識を育む教育の充実</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町独自のいじめ・別室対応支援員の配置により、普段の子どもたちの姿をより丁寧に見とることができ、いじめの未然防止・早期発見・組織対応へとつなげることができた。</li> <li>・令和4年度に生徒指導提要在改定され、いじめ防止策については発達支持的生徒指導に基づいて行うことが示された。このことを受け、令和5年度に「竜王町いじめ防止基本方針」の内容を改定し、重大事態への対処や、状态的・先行的な取組について明記したため、より実態に合った対応ができるようになった。このことにより各校園とも教職員がいじめに対して、アンテナを高く張ることで大きな事態となる前に発見・対応に努めることができた。</li> <li>・生徒指導体制の基本である「報告・連絡・相談」を徹底し、全教職員が子どもの安心安全を守るための意識を高く持ち、各校園において未然防止、早期発見、早期対応を図った。</li> <li>・令和5年度の不登校児童、生徒は、小学校で10人（令和4年度14人）、中学校では10人（令和4年度9人）となり小学校ではやや減少、中学校では横ばいであった。引き続き家庭や自立支援課、健康推進課等の関係機関との連携を深めながら不登校児童生徒への対応に努めている。</li> <li>・SC、SSWを活用しながら学校と連携して不登校児童、生徒に対して、継続性のある計画的な取組を進めてきた。担任や支援者とのかかわりを通じて学校での表情や登校への意欲などが改善されてきている子どももいた。</li> <li>・スマホ等の問題について、各校園でPTAや関係機関と連携しながら議論を進めるとともに、学年ごとにスマホ教室等の講座の場を設けるなど継続的な指導に取り組んだ。しかし、竜王町の小中学生はスマホ等への依存率が全国と比しても高い現状があり、子どもの実態に合わせたより実効性のある講座等を開催して行くことが必要である。</li> <li>・各校園において、担任だけが問題を抱えるのではなく、チーム学校園として、学校・学年集団で迅速に対応できる組織作りに取り組んだ。</li> <li>・定期的に行う児童、生徒に対するアンケートや面談で、子どもの悩みに気付き素早くチームで対応することができた。</li> <li>・毎月11日の「人権を確かめ合う日」に併せて、各校園で工夫した取組が継続できた。</li> <li>・小学4年生の総合的な学習の時間では、町社会福祉協議会の協力を得て、認知症や高齢者理解、点字体験など実際の体験を通じた充実した福祉体験学習ができた。</li> <li>・「特別の教科道徳」の時間については、時数を確保し、丁寧に授業を進めることができた。</li> <li>・「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答した6年生児童の割合は79.5%（令和4年度76.0%）とやや増加したが、全国平均（81.5%）にはやや届かなかった。また、中学3年生では67.9%（令</li> </ul>
--	-----------------------------------	---	---

			<p>和4年度60.9%)と上昇し、全国平均(66.3%)を上回る結果となった。小中学生全体では全国平均より0.4ポイント低くなり、当初目標の「全国平均より0.9ポイント上げる」という目標には届かなかったが、令和4年度の数値(全国平均より3~6ポイント下回る)より大幅に改善された。これについては小中学校ともに、道徳・人権学習を通じて向上心の大切さ、自尊感情や自己有用感を高める学びの場を多く取り入れた成果、また小学校では地域や町の将来について考える学習に取り組んだり、中学校では職場体験(チャレンジウィーク)を核とした取組を進めてきたりした結果向上してきたものと捉えている。今後も将来をイメージできるキャリア教育や学習を進めて行く。</p>
(4) 健やかな体の育成と体力の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ素洗口による虫歯0(ゼロ)への取組を継続した。その成果としては、令和5年度も町内児童、生徒のう歯率の低さは県内でもトップレベルであったが、町内的に見ると若干虫歯率が増となっている。これはコロナ禍のフッ素中止や自宅待機等の期間の食生活の変化によると思われるため、学校保健委員会の取組の見直しと強化、連携に努めて行く。</li> <li>・竜王こども園では、4歳園児および5歳園児の体力づくりの一環として園内のボルダリングウォールを使った活動を行った。</li> <li>・園庭での運動遊びに自発的に取り組める環境づくりを行い、活動の充実と運動能力の向上に向けて取り組んだ。幼児の運動能力調査(県)の結果は、全ての項目において県の平均と同等もしくは上回る得点となった。新型コロナウイルス感染症による戸外での運動遊びの制限等を入園前から経験してきた子どもたちだが、園での取組による成果が表れている。</li> <li>・体力向上の取組を推進し、県「チャレンジランキング」への参加、運動ドリルの活用、子ども主体による各種スポーツ大会の開催等工夫した活動ができた。</li> <li>・運動および体力について、こども園の園児は「幼児の運動能力調査」において、県の平均と同程度または上回る結果となった。小中学校の「新体力テスト」において、男子はどの種目も県平均とほぼ同程度であるが、女子については県の平均をおおむね上回っている。</li> </ul>	
(5) 個に応じた特別支援教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学支援委員会を3回開催し、ワーキンググループや小委員会による園児、児童、生徒の行動観察や答申の作成および就学相談等を進めることで、保幼小中の切れ目のない特別支援の継続と保護者支援を行うことができた。</li> <li>・小中学校への町費の学習支援員や低学年支援員、竜王こども園への特別支援保育加配の配置により、個に応じた支援を行うことができた。</li> <li>・特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援教育支援員等研修会において、講師を招いて指導者としての専門性を高めた。</li> </ul>	

	(6) 家庭・地域との連携・協働による学校教育の推進	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜王小学校では、地域学校協働本部と連携して授業等のボランティアや丸付けを行う「はなまる先生」などの様々な支援が実施されており、地域の方の学校支援の輪が広がっている。また、定期的に協議会の事務局会議を開催し、学校や子どもたちによりよい教育環境を整備するための話し合いを行った。こうした取組については、仙台市から本町への学校運営協議会の行政視察の際に事務局から活動報告を行い高い評価を得た。</li> <li>・竜王西小学校の学校運営協議会では、「ふるさと学習推進プロジェクト」が自然や歴史、地理などの部会ごとに具体的に計画・実行され、「ふるさと学習推進プロジェクト～地域（ふるさと）を語れる子に、地域（ふるさと）を誇れる子に～」の取組を行った。また、ふるさと学習については学校と学校運営協議会の役割分担を明確に整理し、学校が行う活動、学校と協議会が連携して行う活動、協議会が行う活動に分類して活動した。このことから、活動の指示系統がはっきりし、教職員にとっても過度の負担をかけない環境が整った。また、学校運営協議会室（結（ゆい）る一む）を確保し、日中に委員が待機・活動できるスペースを確保することができた。</li> <li>・竜王中学校では、学校運営協議会による土曜塾への参画や職業体験における企業との連携等の支援、「早寝早起き朝ごはん」と呼応した取組が進んだ。また、部活動の地域移行を念頭に、委員が「部活動部会」を構成し部活動の実態を調査した。</li> <li>・認定こども園では、園運営協議会が中心となって教職員、園児、保護者との信頼関係および保育・教育の質の向上をめざしている。小学校のふるさと学習につながるような「地域のお散歩マップ」を作成したり、鏡山登山の見守り活動など、積極的な活動を行っていただくことができた。</li> <li>・各校園においては、各校園ブログ等による情報発信が充実し、日々の様子を伝えたり、教育方針や取組について啓発に努めたりするなど、多くの保護者や地域の方に情報を発信できた。</li> <li>・町ホームページや広報を活用して、可能な限り各校園の様子や教育委員会の各種事業等を掲載し、地域への周知に努めた。</li> </ul>
2 心身の健やかな成長を保証する就学前教育・保育の推進	(1) 認定こども園における指導の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内保育園・小学校とのアプローチ・スタートカリキュラムの作成と実践による改善等に努め、架け橋期の保育・教育の充実に向けて取り組んだ。</li> <li>・遊びの中で様々な体の動きを経験し、自分なりの目的をもって楽しみながら取り組める活動を大切に、園での活動の様子や幼児期の体を使って遊ぶ経験の大切さを保護者に知らせ、関心を持ってもらえるように工夫した。</li> <li>・竜王こども園にALTが訪問し、5歳児は毎月、4歳児はクラスごとに隔月、3歳児は学年末に英語体験教室を実施した。ネイティブスピーカーと英語で触れ合う体験に継続して取り組み、絵カードを見て色や動物、数などの単語を言ったり、感情を表す言葉を歌に合わせて全身を</li> </ul>

			使って表現したりするなど、楽しんで英語と触れ合うことができた。
	(2) 一人ひとりの園児に寄り添う教育・保育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが主体的に楽しめる、制作・表現遊びをめざして、研究保育3回、事例研修6回を開催し、つながりのある教育・保育の展開と教材研究について研究を行った。生活の流れや活動の組立ての検討も改めて、次年度以降につなぐ協議が行えた。</li> <li>就学時期を見通してそれぞれの子どもの発達状況や課題に沿って随時家庭と連携し、必要に応じて、保護者の不安や質問に寄り添い、町内外小学校の参観や就学相談、懇談、養護学校見学等を行い、スムーズな接続に向けた支援を行った。</li> </ul>
	(3) 子育て支援の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>長時間保育においては、各年齢に教育時間と長時間保育での子どもの様子を理解して関わる主任教諭を配置し、教育時間と保育時間をつなぐ連携がきめ細やかにかつ丁寧に行えた。</li> <li>次年度就園予定児対象の「ちびっこの日」では、未就園児親子が3歳児の保育を実際に見える環境で保育体験できるよう内容を工夫して、年間9回実施した。延べ130人の参加があり、入園後の生活が具体的にイメージでき、入園を楽しみにしてもらうことができた。また、0歳児から誰でも親子で参加でき集える場となるよう「こども園で遊ぼう」（園開放日）を9回実施し、100人の参加があった。竜王こども園の環境を利用して、安心して子どもを遊ばせることができる環境と、親同士の交流ができる場として、また、町内の子育て支援のセンター的役割として今後も充実を図る。</li> </ul>
3 安全安心で笑顔があふれ、挨拶がこだまする学校・園経営	(1) 教育施設および教育環境の計画的な整備と充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化や管理不足による学校事故を防ぐため、年度当初の校園長会や教頭会において、学校安全、防犯、危機管理等について各校園の課題や対応を共有し、課題がある場合は早急な対応をとるように指示した。これを受けて各校園ではPTA有志による高木の伐採や用務員による枝払いなど、落下、倒木、接触によるけがなどの未然防止に努めた。</li> <li>老朽化に伴う各校園施設の破損や故障に対し、できる限り予算化して早期修繕を行った。</li> <li>竜王中学校では、プール給水バルブ修繕、プール仕切弁修繕、体育館前漏水修繕等を行った。</li> <li>竜王小学校では、体育館屋根漏水修繕、トイレバルブ修繕（2箇所）、煙感知器修繕等を行った。</li> <li>竜王西小学校では、グラウンドフェンス修繕、プールろ過機不良箇所修繕、プール手洗い用給水管漏水修繕等を行った。</li> <li>竜王こども園では、プールFRP防水修繕、駐車場街灯修繕等を行った。</li> <li>両小学校および中学校については、建築基準法において特殊建築物として位置づけられていることから、定期調査業務を実施した。</li> <li>平成27年度に導入し経年による動作不良が発生していた町内小学校の校務用パソコンについて更新を行った。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度末開校をめざす竜王小学校移転新築に向けて、関係課とともに交流・文教ゾーンの施設整備計画について協議を行った。また、移転新築後の通学路について、小学校を通じて保護者の要望調査を実施し、安全に通学できる通学路の検討を行った。引き続き、関係課や滋賀県との協議を行う。</li> </ul>
(2) 通学路の安全確保と生命尊重にかかる教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校における自転車通学上の安全確保については、毎年4月に1年生を対象とした交通安全教室を開催し、警察官による交通法規や通行指導などを行っている。また、地区別集会等で、通学安全上および防犯上危険箇所等がないかを確認し、教職員および生徒で共有するため全校集会や学級での啓発を適時行った。この取組事例を教育委員会から県の保健体育課に報告し高い評価を得た。この他にも随時教職員による交通立番、PTAが中心となって朝の挨拶および見守り活動を行っている。また、小学校では、学年ごとに通学路の歩き方や自転車の乗り方、教室等を実施するとともに交通安全啓発DVD等による学習を進めた。</li> <li>定例の校園長会、教頭研修会、教務主任等連絡会において、学校園での安全確保に努めるよう指示伝達を行うとともに、校園長からも安全管理や安全教育、組織としての取組などを情報交換し、学校園全体として、学校事故、交通事故を起こさないための危機管理意識の保持向上に努めた。</li> <li>スクールガード、子ども110番の家等の継続した取組により、地域ぐるみで子どもたちの安全確保に努めた。</li> <li>おうみ通学路交通アドバイザーやスクールガードの皆様を中心に子どもたちの毎日の通学を見守り、また、危険箇所点検にも加わっていただき、通学路の安全確保に努めた。</li> <li>PTA等からの通学路改善要望に対しては、関係各課や県東近江土木事務所、近江八幡警察署、おうみ通学路交通アドバイザー等と連携する中、年2回の通学路合同点検を実施し、対応可能なものから逐次改善を行った。今後も連携しながら可能な対策から改善して行くように努める。</li> </ul>
(3) 食育の充実と安全安心で特色ある学校給食の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食運営委員会を開催し、学校給食事業計画、学校給食事業特別会計等について審議、助言を仰ぎ、学校給食センターの適切な運営と施設維持管理に努めた。</li> <li>学校給食衛生管理基準に基づき食材検査、施設検査を実施して、共同調理場の衛生管理を徹底した。</li> <li>給食センター職員に大腸菌、ノロウイルスの便中検査を実施し、健康管理に努めた。</li> <li>学校給食の提供に際し、異物混入への未然防止と混入時の原因究明に引き続き努めた。</li> <li>給食主任会や献立検討委員会を定期的で開催し、栄養バランスのとれた献立や減塩献立、日常食生活において不足しがちな食物繊維・カルシウム・鉄分たっぷり献立を実施するなど安全・安心で栄養価の高い学校給食の提供に努めた。また、ふるさと給食については内外に積極的</li> </ul>

			<p>に情報発信を行い、町ホームページ等により給食を通じて町の魅力のPRを図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専用のInstagramを開設したことで、学校給食の献立や写真を掲載して情報発信を行う取組ができた。</li> <li>・栄養教諭および栄養士の専門的知識を活かし、各校園と連携しながら、学級活動の食育指導や食に関する授業を計画的に行うとともに、地域の郷土料理、行事食も積極的に献立に取り入れることで、子どもたちの食べ物や食に関する感謝の心を育むことや、健全な食生活の営み、健康への関心を高めた。</li> <li>・中学校1年生(106人)に給食献立を考案する機会を設け、献立として実施できれば生徒たちの励みになるとして、給食センター職員で3品目を選定し、1月の学校給食週間に給食として提供できた。</li> <li>・アレルギー対応食調理室を有効に活用して、現職員体制の下、可能な限り対応食の充実を図り、安全なアレルギー対応食の提供に努めた。</li> </ul>
	(4) ふれあい相談発達支援センターとの連携による相談・支援の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニングは7人の参加があり、全6回実施した。参加者同士のつながりもでき、同じ悩みを持つ親同士のピアサポートの意味合いでも効果が見られた。家庭教育支援事業の研修会や親子そだてサロン*tomoni*にも参加され、地域の中の居場所につながった方もおられた。</li> <li>・アウトリーチ型の支援では、福祉と教育、さらに民間とも連携した支援を展開できた。</li> <li>・教育相談主任会を定例で開催し、各校園と自立支援課が連携し、課題を抱えた子どもの早期発見や早期支援ができるように努めた。</li> <li>・不登校状態にある児童、生徒の学びの支援と居場所の保障に向けて、ふれあい相談発達支援センターとの協議を重ね、学校との連携の強化を図るために自立支援ルーム(小中学生の適応指導教室の部分)を令和6年度からは学校教育課が所管することにした。引き続き自立支援課(ふれあい相談発達支援センター)と連携することについても申合せをした。</li> <li>・自立支援課との協働で高等学校との連携を強化し、町内在住生徒の支援を早期に実施することができた。</li> </ul>
4 子どもの力を引き出し伸ばす教職員の指導力と実践力の向上	(1) 教職員一人ひとりの教師力、学校・園全体の組織力の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は、「教師力・学校力アップ事業」として、竜王町教職員研修会を3回実施した。第1回目は、コンプライアンス研修を開催し、不祥事防止についての学びを深めた。第2回目は、愛着障害、学力向上、教育相談、特別支援教育についての選択研修とすることで、教職員のニーズに基づいた研修を進めることができた。第3回目は、優秀教職員表彰や実践報告等学校園の取組や活動を評価、共有し、教職員のモチベーションアップに結び付けることができた。優秀教職員表彰は地道な努力を重ね優れた教育活動に取り組む教職員を表彰するもので、令和5年度は4人の教員を表彰した。</li> <li>・町独自の若手教員研修制度を導入し、各校園において概ね3年次までの若手教員や臨時講師、町費講師の授業力</li> </ul>

		<p>等、指導力の向上に努めた。改善の方向性を本人だけでなく管理職等と共有するとともに、互いに授業等を参観することで若手同士の連携にもつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の資質向上を図るために、研修機会の連続性や適時性を踏まえて、町から「学校支援マネージャー（新進教員指導員）」を学校に派遣し、教職経験の浅い教職員の授業研修を中心に教師力の向上に努めた。</li> </ul>
(2) 資質向上をめざす研究・研修の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町独自の「教育研究奨励事業」では、教職員個々の実践研究を奨励し、その成果を全体研修で共有することを目的として教育奨励賞の研究レポートを募集した。一般部門では認定こども園・小中学校から合わせて6本、新人部門では中学校から1本の応募があり、両部門各1人が奨励賞を授与した。他のレポートも日々の取組や研究の成果が緻密にまとめられており、事業を通じて教職員のモチベーションを高めることができた。</li> <li>・自主公開アピール事業を11月8日に竜王中学校で開催した。研究主題に基づいた公開授業を行うとともに、研究会を開催し授業の振り返りを行った。また、滋賀大学教職大学院の辻延浩先生を講師に、児童が主体的・対話的に学習活動を行うための講演をしていただいたことで、教職員が授業改善の意欲およびスキル向上に結び付けることができた。</li> <li>・優秀教職員表彰では、意欲や実践をしっかりと検証し、教職員の地道な教育実践による成果を称えることにより、教職員の意欲の向上に努めることができた。</li> <li>・教職員全員研修会は、夏季には4つの講座を選択性による研修会を行うなど、工夫して研修の機会を持つことができた。</li> </ul>
(3) 業務改善と働き方改革の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール・サポート・スタッフや竜王中学校の部活動指導員の活用を継続した。</li> <li>・竜王中学校での部活動の地域移行に向けて、地域移行コーディネーターを中心に改革を進めている。令和5年度の「部活動地域検討協議会」は1回のみで開催に留まったが、生徒や保護者、教職員等への地域移行に対する意識・課題等のアンケートを実施し、よりよい移行のあり方検討に向けて準備を進めている。また、モデルとなる部活動（バレーボール部）も軌道に乗ってきている。</li> <li>・町独自の学校支援マネージャーの活用を継続し、新進教員や管理職の相談、アドバイスを通じて支援にあたるとともに、校種間の「報告・連絡・相談」に務めた。</li> <li>・令和4年度の8月から導入した統合型校務支援システムを活用し、児童、生徒の出欠記録や学習記録および成績処理、通知簿作成などを一元化することにより、教職員の事務作業の軽減につなげることができた。また、更なる利活用に向けて小中学校と教育委員会間の連携を強化して行く必要がある。</li> <li>・町独自の措置として低学年支援員を配置し、低学年の支援にあたることで担任の負担軽減および教育活動の充実に結び付けることができた。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度において、教職員の超過勤務は、月平均で小学校で37時間20分、中学校で50時間30分であった。町教育委員会としては長時間勤務の教職員に対し、管理職による面談の実施および指導をすることで、メンタルヘルスや超過勤務の現状把握、改善策などを提案するよう指示を行った。また、特定の教職員に校務が偏らないよう、校務分掌のリーダーを複数体制にするなどして、負担の軽減を図るようアドバイスしている。こうした取組もあり教職員一人ひとりが余裕をもって児童や生徒に向き合う時間を増やすとともに、自分の業務をマネジメントしながら退勤しようとする雰囲気醸成されつつある。</li> </ul>
5 心豊かでたくましい青少年の健全育成	(1) 青少年活動の支援と青少年の健全育成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>町子ども会連合会および町スポーツ少年団活動等の本部活動への適切な指導と助言を行った。</li> <li>町青少年育成町民会議事務局運営を円滑に進めるため、町青少年育成推進員を継続配置して事業展開に努めた。</li> <li>「少年の主張大会」は新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類になったことを踏まえ、4年振りに制限を設けず開催できた。「自らの将来に抱く夢」、「平和の尊さ」や、「個性の尊重」など、子どもたちからのメッセージは会場の聴衆の心に響くとともに、子どもたちが抱く素朴な疑問や貴重な提案は大人たち自らのあり方の見つめ直しを促すものであり、大会は有意義な場となった。なお、主張内容は町青少年育成町民会議の広報紙により広く住民に発信できた。</li> <li>応募作品数582編（小学校：237編、中学校：345編）、発表者14人（小学校：6人、中学校：8人）来場者数130人</li> <li>登校（園）時の学校園校門での「あいさつ運動」、町内巡回パトロールについて、予定通りに取り組んだ。</li> <li>町少年補導員のパトロールを3班体制で通年実施した。</li> <li>近江八幡・竜王少年センター副所長に当町推薦の指導員1人が配置され、竜王町担当として町内巡回パトロールや相談業務対応をしたが、相談事案はなかった。</li> <li>町内での青少年の触法行動等の大きな問題はなかった。</li> <li>関係機関、各校園と連携し青少年の非行防止に努めた。</li> </ul>
	(2) 家庭の教育力向上をめざす取組の充実 (3) スマホ依存度縮減にかかる啓発・取組の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年連続で国の「早寝早起き朝ごはん」推進校事業を受ける中、新たにこども園を加え、生涯学習課を中心にして町内全校園を連携推進校に位置づけて、家庭の教育力向上に向けた「就学前から中学生までの成長期に応じた連携を密にした取組」ができた。</li> <li>「早寝早起き朝ごはん」推進リーフレット（ジャーナル）7号を作成。町内全戸および保護者、そして、保・こ・小・中の園児、児童、生徒に配布した。加えて、各種関係者会議でも配布することで、規則正しい生活習慣の大切さや、子どもの成長に応じた家庭教育の重要性を広く啓発することができた。</li> <li>子どもたちが「早寝早起き朝ごはん」に“興味や関心を持つ”ように、町養護教諭部会と連携し、啓発紙芝居を作成した。作成に当たっては、子どもたちが当該啓発活動に主体的に関わることで啓発効果があがるようにキャラクターのデザインおよび愛称（ネーミング）につい</li> </ul>

		<p>て、児童生徒を対象に募集し、優秀作品をフォーラム会場で顕彰した。なお、11月以降、紙芝居を活用して、こども園を中心に当該運動の啓発に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育フォーラムで子どもたちの生活習慣の状況を昨年と比較するため9月に実施した小中学生へのアンケート結果では、「スマホ依存」に関し、小中学生ともに高くなっていた。また、6月実施の学校保健部会の調査でも同傾向が見られるなど、改善につながっていない。今後も保護者の理解と協力を求める中、継続した啓発を進めることが必要と再確認した。</li> <li>・上述の状況を踏まえ、スマホ依存からの脱却には家庭の協力は不可欠であることから、ジャーナル7号では「大人も子どもも家族みんなでのスマホ使用のルールづくりとその実践」によるスマホとの関係を見直すことを訴えた。これらにより、規則正しい生活習慣の確立の大切さの周知に努めた。</li> <li>・教育フォーラムでは、昨年に引き続き兵庫県立大の竹内和雄教授を招き、「竜王子どもスマホサミット」と銘打ってパネルディスカッションを開催し、教師、保護者、児童・生徒がスマホとの関係について思いや考えを訴え、それぞれの立場での現状について顧みる機会となるとともに、現状の課題とめざす姿について会場の参加者も含め共有が図れた。</li> <li>・年間を通じての「早寝早起き朝ごはん」啓発推進のために、各校園では、学校（園）だより、学級通信や各種チラシをそれぞれの保護者に配布した。また、竜王中学校全生徒を対象に、毎日の生活習慣を振り返る「生活のあゆみ」の活用による各自の日常における課題把握や「生活チェックシート」による長期休業明けの生活習慣の状況を踏まえ、子どもたちの生活習慣改善に向けた取組を行った。</li> <li>・食育視点から朝食の充実を図るため、生活記録ノートには朝活チャレンジ「プラス一品」チェック欄を設け、保護者の協力を求めて生徒の朝食の充実に取り組んだ。</li> <li>・中学校生徒会を核に、新たに小学校児童会を加え、9月からノースマホデー（毎月「0」の付く日）に防災行政無線を利用した「早寝早起き朝ごはん」啓発放送を前年度に引き続き実施した。町民からは評価の声が聞かれたが、周知に留まることなく実践へとつながることが必要である。</li> <li>・本取組は啓発活動であり成果を可視化しづらいが、より効果を上げるためには、今後も、チラシ等の紙媒体や講演会等のみならず、「SNSの一層の活用」を始め、啓発の切り口を工夫した上で、より多くの人にその主旨が届くよう努める。</li> <li>・これまでの4年間の全町挙げての取組は、校園という子どもの成長と歩調を合わせた組織の連携体制構築につながり、「早寝早起き朝ごはん」推進にかかる効率的な取組ができた。</li> </ul>
--	--	---

<p>6 人生100年時代、全ての人が主人公を演じる生涯学習の推進</p>	<p>(1) 地域学校協働本部と学校運営協議会の連携による人材育成と未来の学校づくり・地域づくり</p>	<p>S</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度実績 <ul style="list-style-type: none"> <li>*支援分野（内容） <ul style="list-style-type: none"> <li>行事（託児、絵本貸し出し、ベルマーク集計、花壇整備、職員現地研修等）</li> <li>学習（家庭科、農園指導、はなまる先生、本の読み聞かせ、七輪体験、ふるさと学習等）</li> </ul> </li> <li>*新規登録ボランティア人数 63人（R4・33人）</li> <li>*ボランティア支援実人数 173人（R4・132人）</li> <li>*支援回数 453回（R4・538回）</li> <li>*支援延べ人数 1,400人（R4・1,403人）</li> </ul> </li> <li>・地域学校協働本部として他市町にはない仕組みであり、統括地域学校協働活動推進員を核として、地域学校協働活動推進員（5人）が5校園の学校運営協議会（コミュニティスクール）の委員に加わることで、協働本部と学校運営協議会の相互連携を図り、主体的な活動に取り組めるよう努めた。竜王西小学校では前年度に続いて文化・歴史に触れる地域学習のためのフィールドワークの実践などができた。</li> <li>・学校支援活動については、校園で40の分野での支援を行った。竜王小学校で取り組んでいる児童の宿題の丸付けや音読、九九の聞き取りなどを行う「はなまる先生」は、支援回数は213回、延べ支援人数は271人であった。</li> <li>・広報紙「竜王町地域学校協働本部だより」を年1回新聞折り込み（別途学校園経由配付有）により発行し、町民への活動周知とともに活動参加への啓発、ボランティアの募集を行った。</li> <li>・学校支援ボランティア（地域ボランティア）は、これまでの人生で習得した技術や経験を大いに活用することで、自身の「自らの生きがい」につなげることができた。 一方で、地域ボランティアメンバーの高齢化と固定化が危惧されている。この課題を解決するためには常に新たなボランティアの募集を行い人材の発掘を継続していかなければならない。</li> <li>・竜王小学校では、親子で楽しめる活動として、スクール農園（畑）を活用した農業体験活動に継続して取り組んだ。授業等で使用しない畑を保護者に開放し、児童とともに休日に農業体験を通して作物の生育を学習し、収穫した農産物をイベントで販売した。</li> </ul>
	<p>(2) 「つどう・まなぶ・むすぶ」公民館教室・講座の充実</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館利用者や自主文化活動団体等が、公民館（文化協会共催等）のイベントや日ごろの練習、創作等に利用できる施設として活用いただいた。</li> <li>・「ドラゴンカレッジ」の開講 20歳以上を対象としたドラゴンカレッジの充実とともに、自主文化活動団体発足につなげる取組を行った。令和5年度は、自然探訪講座、クラフトバンド手芸講座、まくらめ編み講座、筆文字講座の4講座を開講した。</li> <li>・新規開講講座の開拓 令和5年度の新講座開講として「自然探訪講座」を開講した。</li> </ul>

		<p>令和5年度実績</p> <p>*ドラゴンカレッジ</p> <table border="0"> <tr> <td>自然探訪講座</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>クラフトバンド手芸講座</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>まくらめ編み講座</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>筆文字講座</td> <td>22人</td> </tr> </table> <p>・「漢字能力検定」の実施 住民の生涯学習の機会の拡充、子どもたちの学力向上と客観的評価による向学心の維持・高揚をめざして実施。</p> <p>令和5年度実績</p> <p>*漢字能力検定試験 2回開催 延べ86人</p> <p>・「竜王キッズクラブ」の開講 町内小学校児童が、様々な体験や学びを通じて、異年齢（異学年）および地域の人々との交流を深めることにより、仲間づくりと技能向上、何事にも挑戦する勇気を育むことを目的に開講した。令和5年度はサイエンス、書道、チャレンジ、ユースプラス（吹奏楽）の4クラブを開講した。</p> <p>令和5年度実績</p> <p>*竜王キッズクラブ</p> <table border="0"> <tr> <td>サイエンスクラブ</td> <td>67人</td> </tr> <tr> <td>書道クラブ</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>チャレンジクラブ</td> <td>106人</td> </tr> <tr> <td>ユースプラス</td> <td>30人</td> </tr> </table> <p>・夏休み「キッズスクール」の開講 小学校の長期休業期間（夏休み）に小学校児童を対象に多種多様な教室を開くことで、一人ひとりの趣味や特技を伸ばし、可能性を広げるため開講した。</p> <p>令和5年度実績</p> <p>*キッズスクール</p> <table border="0"> <tr> <td>夏休み</td> <td>11日間（延べ人数）</td> <td>277人</td> </tr> </table>	自然探訪講座	12人	クラフトバンド手芸講座	5人	まくらめ編み講座	9人	筆文字講座	22人	サイエンスクラブ	67人	書道クラブ	13人	チャレンジクラブ	106人	ユースプラス	30人	夏休み	11日間（延べ人数）	277人
自然探訪講座	12人																				
クラフトバンド手芸講座	5人																				
まくらめ編み講座	9人																				
筆文字講座	22人																				
サイエンスクラブ	67人																				
書道クラブ	13人																				
チャレンジクラブ	106人																				
ユースプラス	30人																				
夏休み	11日間（延べ人数）	277人																			
(3) 第2期公民館基本計画の策定	B	<p>・竜王町公民館基本計画は平成22年に公民館コンバージョン事業に併せて策定されており、10年を超過したことから第2期計画の策定が令和2年度からの課題となっていた。令和4年度から2年にわたって策定作業を進めてきた。その結果、年度末に基本計画が策定できた。</p> <p>・公民館の多様な活動を通して、住民が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」という場になることに努めるとともに、公民館が多くの人と人との「つなぐ」「ひろげる」拠点となれるよう、そして、竜王町の人づくりや地域づくりにつながるようスローガンを設定した。</p> <p>・これからの竜王町公民館の方向性として次の5項目を挙げ、基本目標の達成をめざして行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多くの学びの場を提供すること</li> <li>○学校園の教育活動との連携を図り、社会に開かれた教育課程をともに実現すること</li> <li>○竜王の特色である地域学校協働推進事業の拠点としての役割・機能を果たすこと</li> <li>○地域のコミュニティや防災の拠点となること</li> <li>○転入居住者を始め外国からの転入者が、地域活動に</li> </ul>																			

			<p>参加しやすくなるための学び・つながりの場を提供すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2期公民館基本計画に基づく公民館の事業・活動を展開して行く上での具体的な数値目標を設定した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○公民館の年間利用者数 令和5年度：6,000人 → 令和16年度：70,000人</li> <li>○自主文化活動グループ 令和5年度：33団体 → 令和16年度：40団体</li> </ul> </li> </ul>
	(4) 地域に開かれ親しまれる図書館の運営	A	<p>「第3期竜王町立図書館基本計画」に基づき、住民に必要な資料を収集し、提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の個人貸出冊数は100,376冊、住民（令和5年度末人口11,323人）1人当たりの貸出冊数は8.9冊で、貸出冊数は、前年度比91.7%となった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>貸出総数（目標数値 116,350冊） <ul style="list-style-type: none"> <li>個人 100,376冊</li> <li>団体 5,684冊 （うち学校 2,578冊）</li> <li>他図書館へ 340冊</li> </ul> </li> <li>1人当たりの貸出冊数 8.9冊（前年度9.5冊）</li> </ul> </li> <li>（参考）令和5年度 滋賀県市町立図書館貸出冊数 県民1人あたり 6.7冊 図書館来館者数（目標数値35,222人） 35,854人（前年度34,620人）</li> <li>展示コーナーを作品発表や啓発の場として16回活用した。その中でケンケト祭りポスター展示など竜王町のことを知るための展示や、町内在住の方の作品展示と紹介を行い、住民がより「郷土に誇りと自覚」を感じられる活動が展開できた。また、展示コーナーの作品展示は、図書館ホームページや「としょかんだより」の他、各報道機関を通じて積極的に情報発信した。普段、図書館を利用来館されない方への来館するきっかけづくりとすることができた。</li> <li>職員による図書の特集展示を、館内の各所で随時実施し、個々の展示については、図書館所蔵の資料を始め町や各種団体と情報連携し活動成果の展示を行うとともに取組の啓発パンフレット、ポスターを並べることで、来館者の関心を惹くよう発信の工夫をした。</li> <li>利用者からの資料相談やレファレンスに対応し、必要な資料について提供できた。</li> <li>図書館ホームページにて、事業の案内や新着書等の情報を発信するとともに、「としょかんだより」を月1回発行した。</li> <li>小学校児童向けの「としょかんだより」、また、ティーンズ（中・高校生）向けの「つれづれ通信」を発行し、児童、生徒に図書館利用を呼びかけた。</li> <li>子育て中の保護者をサポートするため、保護者自身が自分の時間が持てることでリフレッシュでき、子どものための絵本等をじっくり探す時間が持てるよう、第2・4金曜日に「来館時託児サービス」を実施し、延べ17組の</li> </ul>

			<p>利用があった。利用のない日もあったが利用者からは好評であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児を持つ保護者の絵本選びのサポートとして、テーマに沿った絵本を3冊ずつまとめた「あかちゃん絵本セット」を作り、貸出しを行った。「子どもに何を読んでいいのかわからない」という保護者など、利用された方からは概ね好評であった。</li> <li>・利用のない日の会議室を喫茶しながらの読書、学習等が可能なフリースペースとして開放した。</li> <li>・中学生の居場所事業として視聴覚室を開放し「ふらっとスペースYoruca?」を実施した。(月1回)</li> <li>・「第3次竜王町子ども読書活動推進計画」に基づき、各校園への出前貸出を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>竜王こども園：延べ194人、194冊(年3回)</li> <li>竜王小学校：延べ270人、449冊(年11回)</li> <li>竜王西小学校：延べ474人、698冊(年11回)</li> </ul> </li> </ul> <p>また、保育園・認定こども園への出前おはなし会の他、随時、来館・出前おはなし会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>竜王こども園：年間8回</li> <li>ひまわり保育園・コスモス保育園：毎月1回</li> <li>随時来館・出前おはなし会：6回</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竜王小学校、竜王西小学校の学童保育へ、調べ学習に役立つ本や読み物などの本について団体貸出を始めた。</li> <li>・学校図書館司書と情報交換を行い、学習に必要な資料を幅広く用意するため、資料を手配し、提供するなど、学校や学校図書館との連携を図り、子どもたちの「読書の日常化」に努めた。</li> <li>・「おはなし会」、「おひぎでだっこのおはなし会」を通年実施することができた。また、英語ニーズの高まりにより、「英語DEおはなし会」、「英語DEおひぎでだっこのおはなし会」を実施した。(年5回)</li> <li>・10か月の赤ちゃんと保護者に絵本を手渡すことで、絵本を介して心が触れ合うきっかけを作るとともに、図書館利用への動機付けとする「ブックスタート事業」の継続実施に努めた。絵本引換え者44人</li> <li>・家庭、地域、学校、園、図書館が連携して、子どもが自主的に読書に親しむ機会と環境を整備することをめざした指針として、令和6年度から5年間を見据えた「第4次竜王町子ども読書活動推進計画」を策定した。この計画では、「幼い時から読書習慣が根付くための保護者への啓発」と「学校図書館の蔵書の充実を始めとした読書環境の整備」を重点事項として掲げ、家庭、学校園、地域(図書館、関係行政、学童保育等)が連携をとりながら、「本を生涯の友」とする子どもを育むよう取り組んで行く。</li> </ul>
	(5) 社会教育関係団体支援と人材・指導者の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町青年団については、関係法令が定める要件もあり、事務所を旧竜王西幼稚園絵本室に移転することが難しいことから、町公民館陶芸室を部分借用する方向で関係者等と調整した。対応としては、当分の間、資材・備品を陶芸室に置くこととし、団活動(会議等)は、午前零時まで</li> </ul>

			<p>で公民館交流フロアを利用できるようにした。ただし、町青年団事務所の場所については、当分の間の暫定的な対応である。将来の町の活性化に向け、地域に根差した若者の活動拠点の確保は重要であり、今後も居場所確保の取組は継続する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育指導員（青年団担当）を継続配置し、団活動の衰退を避けるべく活動支援ができた。具体的には、2年目の試みとなる小学生対象の職業体験会や、例年同様の環境美化・広報活動などの社会貢献と併せ団員拡充に向けた取組をサポートした。しかし、組織存続が危ぶまれる状況に変わりはなく、引き続き、団員増に向けた指導・助言や支援が必要である。</li> <li>・社会教育関係団体活動への支援として、12団体に補助金を交付した。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類へ移行したことを機に、活動は本格的に再開されたが、各団体には「従来踏襲でよし」とすることなく活動の工夫が一層求められることから、支援や助言を継続して行く必要がある。</li> <li>・町域4団体の会費徴収を自治会を通じて依頼しない対応の2年目だったが、大きなトラブルもなく定着したと言える。また、団体に事務事業の点検評価を行うことを求めた結果、その見直しにより、団体活動の一部合理化が図れた。なお、令和6年度補助金について事業計画の内容等を勘案した結果、スポーツ協会役員への説明を踏まえ、補助金を増額対応した。また、各校園PTAの補助金については、決算見込額等の会計状況に鑑み、減額対応とした。今後も、必要に応じその増減について、納得できる理由の明示による対応の継続が必要である。</li> <li>・町域団体会費の自治会経由徴収の廃止とともに、町として懸案であった役員選出依頼の見直しによる自治会負担軽減について、関係団体役員との数回にわたる折衝の上、了解を得て4役員選出から2役員選出へと半減させた。また、町教委から選出依頼していた社会体育推進員については廃止とした。結果として、5役員中の3役員選出分の負担が軽減できた。</li> </ul> <p>○文化委員（文化協会）と体育委員（スポーツ協会）⇒文化スポーツ推進員 ○男女共同参画推進員（人推協）と人権教育推進員（町教委）⇒人権教育推進員</p>
7 文化芸術の振興と文化財保護・活用の充実	(1) 文化芸術活動の奨励と振興	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第40回を数える文化祭を盛大に実施し、6,000人を超える来場者とともに大いに盛り上がった。また、22社のお店や事業所、企業から協賛をいただくことができた。</li> <li>・町文化協会と共催で、2月3日（土）から3月24日（日）まで、第6回公民館フェスタ～竜王のおひなさん～を開催。町内外から寄贈いただいた江戸から平成までの豪華なひな壇飾りや神殿飾り、内裏雛等を多数展示するとともに、つるし飾りサークルが制作された多数のつるし雛を天井から吊るして華やかに装飾した。</li> <li>・報道機関に情報発信したことで新聞等に取り上げられ、町内外から多くの来館者があり、華やかな展示を鑑賞い</li> </ul>

			<p>ただくことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館交竜フロア展示ケースを年間通して、月替わりで多種多様な文化芸術作品や竜王町の文化財等の展示を行い、町民の文化芸術と文化財への関心を高め、知識・教養の向上に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館ホームページや玄関ロビーのディスプレイを活用し、公民館事業やイベント情報を定期的に発信することにより町民や来館者へ情報提供ができた。</li> </ul> </li> </ul>
	(2) 文化財保存活動の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定文化財（建造物3、美術工芸1）の防火施設維持管理にかかる費用の一部を助成した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>対象：鏡神社・勝手神社・苗村神社・浄満寺</li> </ul> </li> <li>・昨年度に引き続き、山之上長刀祭保存会への活動の一部にかかる補助金を交付。従来通りの内容で斎行された。</li> <li>・国史跡：雪野山古墳、県史跡：オウゴ古墳・雨宮古墳、国重文：宝匡印塔、燈籠を包蔵する西光寺跡遺跡の除草等の環境整備を行った。</li> <li>・町内に適当な保管環境を用意できないことから、その対応を危惧されていた町指定文化財2つについて、県立安土城考古博物館との交渉の結果、寄託保存について了解を得ることができ、安全な保管環境を用意できた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*須恵八幡神社棟札、中津井文書</li> </ul> </li> <li>・町内を南北に3分割し、文化財巡視員3人が月1回パトロールして町内指定文化財の保存状況把握に努めるとともに観光等で通行に支障を来たす立木伐採など必要に応じ対応を行った。</li> <li>・文化財防火デーにちなみ、近江八幡消防署と連携し町内5社寺の防火施設の点検を実施するとともに防火啓発ポスターも5社寺に配付し、防火意識の高揚に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>5社寺：苗村神社、鏡神社、勝手神社、浄満寺、龍王寺</li> </ul> </li> <li>・町土の開発等に伴う文化財保護法および開発にかかる指導要綱に基づく埋蔵文化財試掘調査を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>対象：文化財包蔵地内および面積1,000㎡以上での開発行為</li> <li>対応内訳：試掘9件、立会2件、慎重工事4件。</li> </ul> </li> <li>・中心核整備課との緊密な連携により竜王小学校移転新築予定地の埋蔵文化財本発掘を9月から7か月間で計画通りに実施できた。結果、勘定海路遺跡で平安時代前期から中期を中心とした遺物（緑釉陶器・墨書土器等）を検出。これを受け、令和6年1月に竜王小学校児童等、3月に一般を対象とした現地説明会を実施し、多くの参加者を得た。</li> <li>・「山之上ケンケト祭り」は、我が国が世界に誇る貴重な民俗芸能として、次代への継承に向け、活動母体である保存会への指導助言等の支援をするとともに、ユネスコ無形文化遺産登録を記念して、町、祭礼保存会、教育委員会による実行委員会を組織の上、5月3日祭礼当日に杉の木神社において「登録記念式典」を挙行し、多くの住民や観光客の称賛を得た。</li> <li>・令和5年度対応予定の国費による苗村神社防火設備更新にかかる補助事業については、当町負担額について当初</li> </ul>

			<p>予算に計上するものの、国において予算措置がなされなかったことから着手が遅延したが、9月の国への要請行動を始め、県を通じての助成要望が奏功し、令和6年3月に基本設計着手に漕ぎつけられた。予算を繰越対応することにより令和6年度内での完工をめざす。</p>
	(3) 地域の歴史に親しむ機会の創出	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りゅうおう歴史文化講座を2回開講した。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類になったことを踏まえ、町公民館ホールを会場に制限等を設けず開催した。</li> <li>*第1回 11月25日(土) テーマ:「ムラに伝わる祭り・行事について～竜王町を中心に～」 参加者:43人(男:27人、女:16人) (町内:33人、県内:10人)町内参加率は76% アンケートでは69%が「良かった」と回答。</li> <li>*第2回 12月2日(土) テーマ:「絵図・地図から見た竜王町～集落の景観を見る～」 参加者:48人(男:36人、女:12人) (町内:34人、県内:14人)町内参加率は70% アンケートでは97%が「良かった」と回答。</li> <li>・2回講座合計延91人の受講。町内受講者(平均)73%。 令和4年度:54%。</li> <li>・児童生徒への啓発活動の展開。 西小コミュニティスクール活動の地域学習へ支援 夏休み歴史体験学習(キッズスクール) 弓づくり:21人、勾玉づくり:33人</li> <li>・広く一般対象に、当町の歴史文化に触れる機会を創出した。 パネル展示(公民館および図書館:6、12月) 6月:竜王の山寺(雲冠寺、西光寺、雪野寺) 12月:竜王町の村と地名展</li> <li>・現地説明会の実施 中心核整備にかかる本発掘調査での成果報告機会 1月28日(日)対象:竜王小学校児童および保護者 3月16日(日)〃:町内外問わず一般</li> <li>・ケンケト祭りユネスコ無形文化遺産登録記念式典(5月3日)への参画(竜王町、山之上薙刀祭保存会、教育委員会による実行委員会体制)</li> </ul>
8 明るく住みよいまちづくりをめざす人権教育の推進	(1) 人権尊重のまちづくりの推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育および啓発の推進に際し、啓発基本方針に謳う10の重点的人権課題をバランスよく計画的に取り上げて取り組むことができた。また、めざす「人権尊重のまちづくり」への取組の成果については検証が難しいが、日々の生活の中で“町民が生きづらいと思わない地域社会の実現”に向け、担当課として常に前向きに取り組んだ。</li> <li>・人権教育啓発基本方針改定3年目になるも、浸透しているとは言い難いが、様々な機会に周知啓発に努めた。</li> <li>・人権教育の主管課として、また、人権教育推進協議会事務局として、未来創造課(人権行政)・商工観光課(企業内人権)と連携を密に、地域・企業・各種団体や機関・</li> </ul>

		行政・各校園を対象に広く学習機会を提供できた。
(2) 学校・家庭・地域・行政の連携による人権教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進協議会の事務局として、協議会の円滑な運営に努めた。また、自治会と連携し、地区別懇談会や男女共同参画集会の開催に積極的に取り組み、地区別懇談会は29自治会、延907人参加（令和4年度：12自治会、延281人）で、また、男女共同参画集会は単独開催が8自治会、延165人参加（令和4年度：4自治会、延65人）と地域での学習機会が着実に増えてきたが、コロナ禍以前のように32全自治会での開催までは至らなかった。ポストコロナを踏まえ、今後も全自治会での開催をめざす。また、各種団体の人権研修開催への働きかけや支援にも取り組んだ。併せて、各校園とも協力しつつ人権学習機会の提供に取り組んだ。</li> <li>・各自治会の人権教育推進員、社会教育推進員、啓発推進員（町職員）を対象とした合同研修会は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ見直しを踏まえ、1回の開催とした。また、地区別懇談会の本格的な開催を呼びかけることができた。</li> <li>・各種団体の人権研修実施は、17団体中14団体で、2団体の増となった。</li> <li>・各種研修会への教材提供および講師紹介等の支援や助言ができた。</li> <li>・人権教育推進協議会学校園部会は、機関誌「こころ」に原稿を提供し、各校園における人権教育について町民の理解に努めた。また、人権研修を開催し、教職員の人権意識の高揚に努め、人権尊重の学校運営に資することができた。</li> <li>・令和4年度から啓発冊子「しあわせはみんなのねがい」について、全戸配布を人推協役員と希望者への郵送に変更した。手間と経費削減にはなったが、冊子を手にする機会の減少につながった可能性を否定できない。今後は、全町民に目にする方法と内容の検討が必要である。</li> </ul>
(3) 人権意識の高揚に向けた教育・啓発の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育および啓発機会の設定に関し、県内外を問わず最新の研究や先進地の取組について、その実践に学びながら試行錯誤を重ねる中、当町取組の方法や内容の質的向上につなぐべく取り組んだ。</li> <li>・「じんけんを考えるみんなのつどい」は、実行委員会を組織して3回の事前会議と研修会を行い、プログラムの縮小、事前申込制等のウィズコロナ対応により開催した。なお、当日は141人の参加を得た。</li> <li>・“人権啓発セミナー”は、県内外から実践者を中心に講師を招き、9月～11月にわたり全5回を開講した。基本方針の10の人権課題の内、5つの課題でテーマを設定した。受講延人数は376人だった。（令和4年度：283人）</li> <li>・セミナー5回中、2回については若い世代の参加を促すべく土曜日の昼間に開講し、若者層の若干の増加に留まった反面、平日夜間に受講が難しかった保護者や高齢者層の参加が増えた。また、平日開校の時間を午後7時30分から午後7時に30分繰り上げたことも「参加しやすくなった。」と好評だった。</li> </ul>

<p>9 「する・みる・ささえる」豊かなスポーツライフの推進</p>	<p>(1) 町民の健康・体力向上に向けたスポーツ活動の推進</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高齢者まで町民誰もが気軽に運動やスポーツに親しむことができるスポーツイベントとして、「竜王町スポーツレクリエーション祭2023」を開催した。  開催日：10月8日（日）10：00～  会場：竜王町総合運動公園  種目内容：ニュースポーツ体験会、バスケ・ビーチボール体験会、ボルダリング（ボルダリング）体験会、ダンスエクササイズ（ZUMBA）、ビームライフル・ピストル体験会、テニス、小学生ドッジビー交流大会、弓道体験会、グラウンド・ゴルフ体験会、体力測定  イベント：滋賀学園中学校・高等学校チアリーダー部パフォーマンス披露、竜王中学校吹奏楽部演奏  参加者：約300人</li> <li>・町民のスポーツ活動およびレクリエーション活動の場を提供し健康づくりの支援を行った。社会体育施設では、新しい利用団体も増え、利用増加となった。  学校体育施設：目標利用者数 延べ21,000人  延べ 30,972人（令和4年度：31,362人）  社会体育施設：目標利用者数 延べ 4,000人（R13）  延べ 5,636人（令和4年度：4,539人）</li> <li>・総合体育大会を町スポーツ協会と共催開催した。雨天によりソフトボール、ゴルフは開催中止となったが、コロナ禍で開催できなかった屋内競技を4年ぶりに開催することができた。  種目：グラウンド・ゴルフ、弓道、ゲートボール、ビーチボール、ボルダリング・ニュースポーツ  参加者：514名（ボルダリング・ニュースポーツはオープン種目のため除く）</li> <li>・2024ドラゴン元旦マラソンを町スポーツ協会と共催開催した。コロナ禍で開催できなかったが4年ぶりの開催となった。  種目：1.0km（ジョギング）、1.5km、2.0km、3.0km、5.0km  参加者：191人</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となり、町民のスポーツ活動の推進について、関係団体等と検討協議を行い、より一層、スポーツに親しむ機会の提供に努めた。</li> <li>・自治会においてもスポーツ事業（運動会等）の実施が減少しており、個人についても趣味や関心のあるもののみを行う傾向が強くなってきている。引き続きスポーツ振興を図るため、スポーツに親んでもらえる環境整備、興味を持ってもらえる事業の展開について関係団体等と検討して行く。</li> </ul>
	<p>(2) 健康増進につながる運動習慣定</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により低迷していた自治会活動も再開され、4団体（竜王西小学校親子ひびきあい活動、竜王町子ども会連合会、竜王町商工会、竜王ライオンズクラブ）およ</li> </ul>

	<p>着に向けた取組の充実</p>	<p>び3自治会（山面、庄、信濃）からスポーツ推進員の派遣依頼（出前講座）を受け、ラジオ体操やスポーツ推進員考案のストレッチ、ニュースポーツの指導等を行った。 （2自治会は雨天等により中止）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操の取組を推進するため、夏休みのラジオ体操の実施について自治会に依頼するとともに、学校等を通じてラジオ体操カードの配付を行い、併せて各家庭での実施を促すため、各自治会にチラシを配布するなど啓発に努めた。</li> <li>・身近にできる運動としてウォーキングの普及に努め、本年度はウォーキング事業“レッツ・エンジョイ・ウォーキング”を実施した。目標参加者数：20名 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 5月27日（山之上他）竜王特産品生産事業者周遊コース（約8km） 参加者：12人 スタッフ：9人</li> <li>第2回 11月18日（薬師）希望が丘文化公園コース（約8kmおよび約4km） 雨天中止</li> <li>第3回 3月2日（日野町）近江日野商人ひなまつり紀行コース（約7km） 参加者：14人 スタッフ：9人</li> </ul> </li> </ul> <p>目標とする1回当たりの参加者数20名に及ばなかった。スポーツ推進委員とも協議し、期日やコースの設定を行っているが、大きな増加につながらなかった。今後は、実施後のアンケート結果や他の団体が実施しているウォーキング事業等も参考に、より魅力あるウォーキング事業の展開に努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に無理なく運動習慣を身につけるため、普段運動する機会の少ない人を対象に参加しやすい体験型のセミナーを開催した。 健康体力づくりセミナー（ZUMBA） 開催日：9月9日、10月8日、11月23日 12月2日 参加者：のべ 146人</li> <li>・竜王こども園の園児および保護者を対象に幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、次代を担う子どもの体力向上とスポーツ機会の充実を図るため、家庭でもできる運動遊びを習得し、幼児の運動の基礎づくりを進め、子どもの体力の向上に努めた。 子ども体力向上研修会 運動遊び：9月13日、11月22日 水遊び：6月16日・20日・27日、7月25日</li> </ul>
	<p>(3) 第79回滋賀国民スポーツ大会に向けた準備</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備委員会から実行委員会へ移行し、第79回国民スポーツ大会開催に向け、専門委員会を開催し、各計画および実施要項の策定など着実に進めることができた。</li> <li>・「スポーツクライミング」が町のシンボルスポートとなるよう、また、第79回国民スポーツ大会の機運醸成を図るため、国スポ周知看板の設置、アンバサダーの任命や各種イベント時にボルダー体験会を行うなど積極的に情報発信など取組を行った。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>各小学校に協力いただき、ボルダー体験教室（竜小：3年生および4年生、西小：6年生）を開催し、子どもを通じて大人へ波及するよう取組を行うことができた。</li> <li>特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」スポーツクライミング競技会リハーサル大会および本大会の視察を行い、競技会場の設営や競技運営の状況等について確認した。</li> <li>開催1年前となる第79回国民スポーツ大会スポーツクライミング競技会開催に向け、更なる機運醸成に努める。</li> </ul>
	(4) スポーツクライミングの選手育成とドラゴンボルダリングジムの活用	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>県下初の公設施設を活用し、地元選出のスポーツクライミング選手の育成を目的とした町スポーツクライミング特定強化選手（令和5年度：5人）の認定を行い、計画的に練習会を実施したが、怪我や受験もあり思うようには参加できない選手も多かった。滋賀国スポまで1年となるため自主練習を促し実力を伸ばす取組を進めたい。</li> <li>各イベント時に開催した体験会での施設活用の他、事業団によるスクールや野口啓代氏を招いたボルダリングクリニックの開催など、関係機関と連携する中で施設のPRやスポーツクライミングの普及啓発に努めた。</li> </ul>
	(5) 第2期竜王町スポーツ推進計画の具現化	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となり、コロナ禍前の事業に戻りつつある。第2期竜王町スポーツ推進計画に掲げる「町民一人ひとりのスポーツの日常化」に向け、関係団体等との連携を行い、各ターゲットに応じた継続的な事業が展開できるよう引き続き取り組んで行く。</li> <li>「みる」スポーツとして、令和5年度は、町スポーツレクリエーション祭2023に滋賀学園中学校・高等学校チアリーディング部を招き、パフォーマンスを披露いただいた。</li> <li>2025年滋賀国スポスポーツクライミング競技会では、「みる（観戦・応援）」「ささえる（競技ボランティア）」ことを通じて、スポーツに興味を持ってもらえるよう準備を進めたい。</li> </ul>

令和 6 年度

竜王町事務点検評価に係る二次評価

令和6年度 令和5年度事業にかかる竜王町教育委員会事務点検および評価シート

S：的確な事業実施がなされ、非常に大きな成果があがっているもの

A：適切な事業実施がなされ、十分な成果があがっているもの

B：成果としては良好なものが得られているが、更なる充実が望まれるもの

C：一定の成果をあげているものの、課題もあり検討を加え努力すべきもの

D：成果が乏しく抜本的な見直しとともに、改善が必要なもの

## 二次評価

教育委員会の活動			
項目	小項目	評価	点検・評価（記述）
1 教育委員会の会議	(1) 会議の回数	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回、計12回、臨時でも開催されている。</li> <li>会議の回数、円滑な運営のための工夫等は適切である。また、運営上の工夫により円滑な会議に努めていることも評価できる。</li> <li>教育委員が学校現場を訪問し、子どもたちの様子に触れて教育行政に反映させていることは評価できる。</li> <li>校園を訪問し教育内容や子ども達の実態に触れているとは、今後の教育行政によりよく反映できると思われる。</li> <li>計画通りの定例会および臨時会の開催は適切である。</li> </ul>
	(2) 会議の運営上の工夫	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切に行われていると考えられる。</li> </ul>
2 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	(3) 傍聴者の状況	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこの市町でも、だれが教育委員なのか、教育委員会がどんな機能を持っているのかを知らないことが多く、町民の関心も向かないのではないか。</li> <li>開かれた教育機関として会議の傍聴等に対応し周知・啓発が工夫され、8月には2名の傍聴があった。</li> <li>2名の傍聴者があったことは、教育への町民の皆様の関心の高さを示している。</li> <li>さらなる周知・啓発等の工夫検討を望む。</li> </ul>
	(4) 公開・広報・公聴	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>開かれた委員会づくりに努めている。</li> <li>町ホームページに掲載されるなど、年間を通じ活動を広く周知されている。</li> <li>住民の関心を向けるため、積極的な情報発信ができています。</li> <li>町のホームページにより周知されており、適切である。</li> <li>ホームページや広報誌の閲覧等を通して、町の教育や教育委員会に関心を持ってくださる町民が増えることは好ましい。</li> <li>今後も開催日や主な議題の周知などを通して、地域住民への情報発信に努めてほしい。</li> </ul>
3 教育委員会と事務局との連携	(5) 委員と事務局との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員と事務局は、随時連絡を取り合い、連携を図りながら円滑に活動できている。</li> <li>委員と事務局は随時情報共有を含めた連携が取られている。</li> </ul>

4 教育委員会と首長との連携	(6) 総合教育会議の開催	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合教育会議が年間3回開催され、適切に連携されている。</li> <li>・年3回の総合教育会議を開催され、年間を通じて「あるべき家庭教育の姿、支援のあり方」について努められ、評価できる。</li> <li>・年間を通したテーマ設定が他の社会教育を含む教育全般にも反映されていて、町を上げての取組がより充実したものになっている。</li> <li>・年3回の総合教育会議の開催において適切に連携されている。</li> <li>・令和5年度は年間を通して「わが町におけるあるべき家庭教育の姿、またその支援のあり方」をテーマに掲げ、継続的に一貫して取り組まれたことは評価できる。</li> <li>・首長の町の教育に関する思いを聞き取り、教育委員会と町当局が共に課題を共有し、連携していることは評価できる。</li> </ul>
5 教育委員の自己研修	(7) 研修会の参加状況	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での研修会、ZOOMでの会議、積極的に情報収集されている。</li> <li>・コロナ禍にあっても積極的に情報収集に努め教育行政に反映させるよう努めている。</li> <li>・各研修会に参加し最新の情報を得て、国や県の動向を理解し、研鑽に努められている。</li> <li>・今後も変化の激しい教育改革に対応すべく意義ある研修を重ね、教育行政に反映していったほしい。</li> </ul>
6 学校および教育施設に対する支援・条件整備	(8) 学校訪問	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が意欲的に取り組める助言に努められている。</li> <li>・学期ごとに計画的に学校園を訪問し、また、訪問テーマを定め意見交換をしていることは、素晴らしい。教職員の資質向上にもつながっている。</li> <li>・各校園の訪問に加え、テーマを設けての教職員との懇談が実施されていることは評価できる。</li> <li>・教育現場に出向き子どもたちの姿を見、教育委員が学校の自主性を支援する体制は大いに評価ができる。機会があれば生徒会の代表との懇談もできるといいのではないか。</li> </ul>
	(9) 所管施設の訪問	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食については、ますます重要な役割を担ってきているが、学校給食運営委員会に出席するなどして、現状把握に努めていただいているのも評価できる。</li> </ul>

教育委員会が管理・執行する事務			
項目	小項目	評価	点検・評価（記述）
1	教育行政の運営に関する基本方針を定めること。（教育大綱を定めること。）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価委員からの評価等実施されている。</li> <li>・教育行政基本方針は写真や図版を多く用いてわかりやすい内容になっている。また、PDCAサイクルを意識し、より充実したものになるよう工夫がなされている。</li> <li>・町の教育基本方針の中の「夢と志」「たくましく生き抜く・・・」などの文言はこれからの社会で必要とされるめざす姿としてふさわしい方針である。</li> <li>・「～キラリと光る教育で竜王の人づくり・町づくり～」の</li> </ul>

		副題は、まさに竜王ならではのオンリーワンをめざす取組として、町・教育行政ともに合致して大切にされていることが理解できる。 ・町の状況、課題を踏まえた教育行政基本方針が策定されている。 ・町の特色や子どもや保護者や地域の実態から、どんな教育をめざすのか、首長と教育行政の課題を共有し、予算配分、環境整備にも生かして行ってほしい。
2 教育委員会規則および規程を制定し、または改廃すること。	B	・適切に行われていると考えられる。
3 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること。	B	・適切に行われていると考えられる。
4 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、または廃止すること。		
5 事務局および教育機関の長の任免その他に関する事。 (県費職員は除く)	B	・適切に行われていると考えられる。
6 県費負担に係る校長の任免・内申(教育長専決事項)	B	・適切に行われていると考えられる。
7 県費教職員の人事の内申に関する事。 (教育長専決事項)	A	・適切な人事異動がなされたのは評価できる。 ・校長の具申のもと適切な人事異動に努め、学校の活性化と総合的な学校力の向上に努められている。 ・適切である。
8 教委所管の各種委員会の委員の任免・委嘱	B	・適切に行われていると考えられる。
9 教科用図書の採択の決定に関する事。	A	・デジタル教科書の指導者用、子ども用の採択がなされたことは評価できる。 ・教科用図書選定委員会の調査研究により作成された資料を基に採択されており、適切である。 ・令和6年度から使用の小学校教科用図書の採択が適正に行われたことは評価できる。教科書も学習指導要領の理念や時代の技術を反映し、デジタル化が進んでいる。調査研究を経て採択された教科書の学校現場でのよりよい活用についても期待する。
10 通学区域を設定、または解除すること。	B	・子どもたちの安全を第一に考え、通学路の一部変更が行われたことは評価できる。
11 請願、陳情、異議申し立てに関する事。		

教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務 (教育行政基本方針の重点目標、重点施策に基づく事務)			
項目	小項目	評価	点検・評価(記述)

1 たくましく 生き抜く力を 育む学校教育 の推進	(1) 確かな学 力を育む教 育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完全35人学級の実現や少人数指導の実施は評価できる。</li> <li>・全国学・学状況の結果のみで判断するのではなく、学年、学年の子どもたちの様子にもよると考えられる。</li> <li>・竜王の子どもたちは漢字や計算といった機械的に繰り返す学習は強いが、自ら考え、思いを表現する学習を苦手とする子が多いように感じる。学力学習状況調査の結果が今一つ伸びない要因ではないか。英語の学びはまず母国語のしっかりした習得が大切なのではないか。</li> <li>・児童生徒の学力面・生徒指導面できめ細やかな教育が実現できている。</li> <li>・全国学力学習状況調査において、県・全国平均を下回るなど、成果にばらつきが見られた場合には、すぐさま検証し、授業改善などの対応策を講じている。</li> <li>・日々の積み重ねと、状況に応じた素早い対応力・教育実践力は安定している。</li> <li>・継続した取組の成果の上に、さらなる充実を図る取組がなされている。</li> <li>・対象外のすべての学年でも総合学力調査を行い、目標値を超えていることは今後大いに期待できる。</li> <li>・学習に向かう力と集中力の育成・徹底反復学習（基礎学力）・思考力、活用力、表現力を高める実践を重ねていってほしい。</li> </ul>
	(2) 社会の変 化を見据え た新しい学 びの推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜王が誇れる取組である。</li> <li>・英語教育推進事業は県下でも高い評価を得ている取組であり、高い成果も報告されている。ただ、町内の全児童生徒を見て見ると、興味関心が今一つ、といった子どもも多く、その成果が一部の子に偏っていないかを懸念している。</li> <li>・県教委指定事業に加え、町独自の「幼小中系統的英語教育推進事業」等、積極的な英語教育の施策は評価できる。</li> <li>・「幼小中系統的英語教育推進事業」「小学校英語パイオニアプロジェクト事業」に取り組み、校種を越えて連携しながら授業改善に努め、英語力をつけるための様々な活動が工夫されている。</li> <li>・子ども英語スピーチ大会、イングリッシュキャンプ2023などが継続して行われ、地域人材の発掘と活用のもと、児童生徒の英語力向上に尽力できていることは素晴らしい取組である。</li> <li>・英語が得意という、特別な人のものにしないで、垣根を低くし、裾野を広げていき、竜王の規模ならではできない英語教育・オンリーワン、ナンバーワンをめざしてほしい。</li> <li>・GIGAスクール構想に基づく教職員の資質向上については、各校のリーダー研修など熱心に研修が重ねられている。環境を整え、指導者・教師の力量形成に努めてほしい。</li> <li>・GIGAスクール構想の推進に向け、いろいろと取組を推進している。機器の活用と授業改善に向けてこれからの取</li> </ul>

		<p>組が注目される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット学習は様々な可能性を秘めている。調べ学習、プレゼンテーション、成果物の保存・蓄積等々、最適な活用について実践が重ねられている。</li> <li>・ICT機器の効果的な活用充実を蓄積し、学習に有効に生かしてほしい。</li> <li>・環境整備には高額な予算が必要であり、加配の充実も求められる。県や国の動向も注視しながら予算要望をしていってほしい。</li> </ul>
(3) 豊かな心・規範意識を育む教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・別室対応支援員の配置やいじめ防止基本方針の改定など、竜王町独自の先行的な取組が進められ成果として現れている。</li> <li>・不登校の児童生徒が減らずに同じような状態が続いている背景は何か、難しいが探る必要を感じる。</li> <li>・片時もスマホを手放せない子、休憩時間になればすぐにスマホを手にする子が増えてきているように感じる。すべてに受け身的な子どもの姿を反映しているのではないか。</li> <li>・子どもの学ぶ姿勢と将来の夢や自己肯定感の高まり、スマホへの依存体質と関連してはいないか</li> <li>・いじめ、生徒指導上の問題、不登校、虐待、性非行問題など、学校では年々課題が山積している。担任だけ、学校だけでは対応できないことも増えている。</li> <li>・「報告・連絡・相談」など生徒指導上の基本を徹底し、担任や教職員の人権意識の高揚、保護者や子どもとの良好な信頼関係の構築など、望ましい教育的対応に努めてほしい。</li> <li>・「将来の夢や目標を持っていますか」の質問には全国平均には届かなかったものの、前年度より大幅に改善されている。キャリア教育などを通して自尊感情や自己有用感を高める学習を今後も継続して進めていってほしい。</li> <li>・各学校では発達支持的生徒指導に努め、いじめ・不登校を含めた山積する課題への対応に努力している。</li> <li>・道徳・人権教育など自己有用感を高める取組の成果を今後も期待する。</li> </ul>
(4) 健やかな体の育成と体力の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ素洗口によるフッ素塗布の継続はう歯の低さにつながると共に、虫歯ゼロへの家庭への啓発になっている。県下でもいち早く取り組み、トップレベルを維持しているのは素晴らしい。</li> <li>・4歳児、5歳児からボルダリングや園庭での運動遊びを積極的に取り入れ運動能力の向上に成果が出ている。幼稚園、小学校ともにさせられる運動から自然に取り組める運動の場を設ければもっと体力向上につながるのではないか。</li> <li>・子ども園でのボルタリングウォールを使った取組等は興味深い。</li> </ul>
(5) 個に応じた特別支援教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中の切れ目のない特別支援の継続と保護者への支援、学習支援員や低学年支援員、特別支援保育加配など充実した体制がつけられている。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・町費による支援員や教員の配置等による特別支援教育充実のための取組は評価できる。</li> <li>・特別支援教育では保幼小中の息の長い切れ目のない支援が必要である。また、個に応じた望ましい就学支援が欠かせない。教員の専門性を高める研修を続けてほしい。</li> </ul>
	(6) 家庭・地域との連携・協働による学校教育の推進	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会との連携、各校との理想的な協働、連携は評価できる。</li> <li>・各校園とも地域学校協働活動の機能が活かされ、成果を上げている。</li> <li>・地域学校協働本部事業などと連携し、各学校では実態に応じた取組が推進され、地域の方の学校支援の輪が広がっている。</li> <li>・はなまる先生などは支援内容や目的がはっきりし、目的加配がうまく生かしている。</li> <li>・各校園ブログによる情報発信は、保護者や地域の方にとっては楽しみであり、教育方針や取組について周知・啓発の機会ともなっている。可能な限り取り組んでほしい。</li> <li>・ふるさとを語れる子の取組は、これから益々大切な学びの場になると思うので、継続されることが望まれる。</li> </ul>
2 心身の健やかな成長を保証する就学前教育・保育の推進	(1) 認定こども園における指導の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の保育園、小学校とのアプローチ・スタートカリキュラムの作成と実践はとても大切な取組と思われる。幼児の運動能力を調べ、運動能力の向上に向けて、無理なく楽しんで運動する取組は大切である。</li> <li>・認定子ども園における指導の充実のため、アプローチ・スタートカリキュラムを作成し、実践を重ねている。</li> <li>・遊びの中での様々な体の動きの体験。英語体験教室での英語絵本の読み聞かせ、ネイティブからの英語に触れる活動など評価できる。</li> <li>・幼児の頃から外国語に触れることで、違和感なく外国語に出会い、自然に外国語が口から出る環境づくりは大切だと思う。</li> <li>・遊びの中で様々な体の動きを経験し、自分なりに目的を持って活動する幼児期の体験を大切にし、保護者にも園の取組に関心を持ってもらえるようにしているのはよい。</li> <li>・園へのALT訪問によるネイティブスピーカとのふれあい体験活動など、独自の取組として評価できる。</li> </ul>
	(2) 一人ひとりの園児に寄り添う教育・保育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究保育や事例研修を重ね、切れ目のない保育と教育の連携についての研究に努めている。</li> <li>・発達状況に不安を抱える保護者との連携、小学校や養護学校の見学等を積極的に行い、小学校への入学がスムーズにいく取組は保護者に安心感を与える。</li> <li>・就学時の相談活動も保護者の不安や質問に寄り添い、安心して就学できるような体制が構築できている。</li> </ul>
	(3) 子育て支援の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間保育、次年度就園予定児への保育体験の実施等評価できる。</li> <li>・長時間保育における人員配置はとても大切な取組である。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・就園予定児を対象にした「ちびっ子の日」を年9回開催し、延べ130人もの参加があったことは、保護者の期待の高さがうかがわれる。地域の子育て支援の充実した機会となっている。</li> <li>・「こども園で遊ぼう」の取組は、保護者が望んでおられるところでもあり、どこの市町でも子どもを遊ばせる場、親同士が交流できる場の要望は大きい。</li> <li>・安心して子どもを遊ばせることができる場、親同士の交流ができる場の充実が図られている。</li> </ul>
3 安全安心で笑顔があふれ、挨拶がこだまする学校・園経営	(1) 教育施設および教育環境の計画的な整備と充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化対策に取り組んでいる。</li> <li>・定期的な安全点検と速やかな修繕により、教育施設の維持管理に努めることは重要課題である。学校安全、防犯、危機管理について課題を共有し、早期に対応されていることは評価できる。</li> <li>・老朽化が進む町内の教育施設の保守・点検および修繕箇所は益々多くなる。新しい施設への移行が待たれるところである。</li> <li>・交流・文化ゾーンの施設整備に伴う新たな通学路などの安全計画については関係者との協議の上、検討を重ねていってほしい。</li> </ul>
	(2) 通学路の安全確保と生命尊重にかかる教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竜王町はスクールガードを始めとする組織が機能していて、町を上げて子どもたちを見守る体制が整っている。</li> <li>・各学校での交通安全に関する指導もしっかりとおこなわれている。</li> <li>・通学路の安全確保については各校園・PTA・スクールガードなど多くの関係者が協力し、様々な取組がされている。</li> <li>・交通安全・不審者情報・天候状況など配慮すべき点は多いが、それぞれの観点で計画的に継続的に安全対策や指導に取り組んでいる。</li> <li>・通学時の安全確保について、子どもたちの安全を第一に進められている。</li> </ul>
	(3) 食育の充実と安全安心で特色ある学校給食の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育は教育の基本。おいしい給食のごはん、地産地消、安全安心、竜王ならではの給食は評価できる。</li> <li>・最近特にアレルギーの子が増えたように感じる。安全なアレルギー対応食の提供に努められたのは評価できる。</li> <li>・給食における専用のインスタグラムによる発信も新しい取組として注目できる。</li> <li>・学校給食運営委員会を開催し、よりよい給食の提供やアレルギー対応食の充実に努めている。</li> <li>・給食センター職員の健康管理、異物混入の未然防止等、日々の安心安全な給食提供に努めている。</li> <li>・安全安心な学校給食と食育の充実のための取組が適切に行われている。</li> <li>・献立について、バランスのとれた食事はもちろん、町の食材を用いた郷土料理や伝統の継承、感謝の心の育成など様々な工夫がされている。</li> <li>・生徒が献立を考え、実際に給食として提供する取組は子どもにとっても嬉しい取組である。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が献立を考え応募するなど主体的な動きも見られ、実際の給食で提供するなどして評価と励ましが見られる。</li> <li>・命と心を育む、おいしく楽しい時間となるよう、子ども達の主体的な活動を大切に生かしている点は素晴らしい。</li> </ul>
	(4) ふれあい相談発達支援センターとの連携による相談・支援の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題のある家庭ほどつながるのは難しく、ペアレントトレーニングの取組はとても有効であると思われる。参加者が地域の居場所にも参加されたことは大きな成果だと思う。</li> <li>・不登校や要保護支援の家庭など、教育・福祉を始め関係機関との連携が必要な事案が増えている。</li> <li>・アウトリーチ型支援が充実しており、福祉と教育、さらに民間と連携して取り組んでいることは評価できる。</li> <li>・不登校児童生徒への対応、家庭支援等にも教育と福祉をつなぐ取組が丁寧に行われている。</li> <li>・所管の変更が計画されているが、義務教育終了後も支援できる体制として自立支援課との協働による取組は継続してほしい。</li> </ul>
4 子どもの力を引き出し伸ばす教職員の指導力と実践力の向上	(1) 教職員一人ひとりの教師力、学校・園全体の組織力の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4校園という規模を生かし、教職員の力量形成のための研修がきめ細かく行われている。</li> <li>・竜王町は教職員の研修機会が多く恵まれた職場環境がつけられている。やらされている研修から自ら高みをめざせる研修へと、教師が成長することが望まれる。</li> <li>・教員同士で授業を参観できる体制はぜひ大切にしていきたい。若い先生にとってはとても大事な機会だと思う。</li> <li>・令和5年度は「教師力・学校力アップ事業」においてニーズに基づいた教職員研修が重ねられている。教職員の自信にもつながり、モチベーションアップにも結びつけることができた。今後も授業改善、スキル向上、家庭教育支援など様々な観点での研修を計画的に重ね、一人ひとりの教師力の向上に努めてほしい。</li> </ul>
	(2) 資質向上をめざす研究・研修の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究推奨事業などで、個々の実践研究を奨励し、教員のモチベーションを高める取組は評価できる。</li> <li>・意欲や実践をしっかりと検証し、教職員の日頃の地道な取組をしっかりと評価し、認めていくことは同時に周りの教員を育てることもつながる。方法を検討し、意欲を育てていく研修が望まれる。</li> <li>・今後は新たな学力観に即した問題に多く触れ、刺激を受けるなど、時代に即応した感性や感覚を呼び覚ます研修にも取り組んでほしい。</li> <li>・竜王町の子どもたちには「主体的・対話的な学習」「自分で考え、自分の意見をしっかりと持てる学習」が求められる。こうした方向での授業改善は今後も継続して進められることを願っている。</li> </ul>
	(3) 業務改善と働き方改革の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の地域移行の取組が地域を上げて行われようとしている。</li> <li>・教員の働き方改革が「児童や生徒に向き合う時間の確</li> </ul>

			<p>保」を目標になされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の部活動の地域移行に向けて、着々と準備が進められている。モデル部が軌道に乗ることによりさらなる広がりが期待できる。しっかりと協議し、ビジョンを持って進めていってほしい。</li> <li>・町独自の学校支援マネージャー、スクールサポートスタッフや低学年支援員等の配置など充実した支援が見られる。</li> <li>・教員の働き方改革が「児童や生徒に向き合う時間の確保」を目標になされている。</li> <li>・校務支援システムの活用、町独自の支援員の配置などの取組は評価できる。働き方やメンタルヘルスなど、教職員自身の意識改革も求められるところである。</li> </ul>
5 心豊かでたくましい青少年の健全育成	(1) 青少年活動の支援と青少年の健全育成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年ぶりの制限なしでの「少年の主張大会実施」評価できる。</li> <li>・「少年の主張大会」については4年ぶりに制限を設けず開催でき、子ども達の率直な意見を多くの方が聞けるよい機会となった。</li> <li>・大勢の前で発表すること、友達の意見を聞くことはまたとない機会である。また、会場の聴衆の心に響き、大人としても自らのあり方を見つめ直す機会となった。今後も望ましい形で再開されていくことを期待する。</li> <li>・「少年の主張大会」が多くの子どもたちの参加によって開催されている。子どもにとっても大人にとっても大変良い機会である。</li> <li>・子ども会連合会、スポ少活動、青少年育成会議等が維持継続され、青少年の活動を町上げて見守る体制が整っている。</li> </ul>
	(2) 家庭の教育力向上をめざす取組の充実 (3) スマホ依存度縮減にかかる啓発・取組の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「竜王子どもスマホサミット」パネルディスカッションの開催は評価できる。その他工夫されている。</li> <li>・竜王町における町を上げての「早寝早起き朝ごはん」活動の取組は成果を上げている。養護教諭部会の紙芝居も子どもの関心を高めるのに役立っている。</li> <li>・中学生の生活チェックシートや啓発チラシなども生活習慣改善に役立っている。</li> <li>・「竜王子どもスマホサミット」では子どもたちが本音で語り合い、教師や保護者・地域住民との交流が図れた。ただスマホを手にする子は、全く無意識で、場所や時間を考えずにYouTube画面などを見ていることが多く子どもたちの意識改革までいくのにはかなり時間がかかりそうであるが、啓発を続けていくことは重要である。</li> <li>・4年連続して「早寝早起き朝ごはん運動」推進校事業を受け、町内全学校園を対象に家庭の教育力を向上できたのは素晴らしい取組である。</li> <li>・「早寝早起き朝ごはん運動」を通しての生活習慣づくりについては、家庭への啓発が大事である。4年間続けることができたのは協力体制も素晴らしいと思われる。しっかり家庭を巻き込み、さらには地域にも発信するこ</li> </ul>

			<p>とにより、町全体に広がっていくことを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育フォーラムではスマホとの関係について教師、保護者、児童生徒それぞれの立場で現状を振り返り、課題を共有できたことは大切な取組であった。規則正しい生活習慣に向けてよりよい行動化・実践につながられているのは評価できる。</li> <li>・家庭教育の重要性が、町から力強く発信されているのがよい。種々の課題解決には、学校教育だけではなく家庭での教育力の向上が不可欠である。</li> </ul>
6 人生100年時代、全ての人が主人公を演じる生涯学習の推進	(1) 地域学校協働本部と学校運営協議会の連携による人材育成と未来の学校づくり・地域づくり	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部と学校運営協議会の連携は、人材育成、未来の学校づくり・地域づくり、他市町村にはない仕組みであり評価できる。</li> <li>・地域学校協働本部と学校運営協議会の相互連携を図り、継続的で価値ある事業を展開している。</li> <li>・町民と団体等のネットワークが構築されており、地域学校協働活動が確かな取組となっている。高く評価できる。</li> <li>・さすが竜王！といえる取組。学校運営協議会と地域学校協働本部がうまく機能し運営されている。</li> <li>・竜王西小のフィールドワークが竜小にも広がるといいのではないかと思う。</li> <li>・文化歴史に触れる地域学習のためのフィールドワークを実践し、はなまる先生による学習支援、スクール農園など様々な価値ある活動が取り組まれている。</li> <li>・人材の発掘を進めてほしい。</li> <li>・親子農園の取組は楽しみである。</li> </ul>
	(2) 「つどう・まなぶ・むすぶ」公民館教室・講座の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年中無休の公民館、自由に活動しくつろげるホールのある公民館はとても珍しく、住民が安心して気軽にくつろげる居場所になっている。カレッジやキッズクラブも充実しているが、まだまだ「受講」している人が大半で、リーダーがこの場所を拠点にまちづくり活動を始められる後押しができれば、さらに発展していくと思われる。</li> <li>・ドラゴンカレッジ、竜王キッズクラブ等ネーミングも竜王らしく、参加したくなる楽しい感じが現れている。</li> <li>・竜王キッズクラブは内容も充実しており、地域で子どもを育てる取組となっている。</li> <li>・夏休みの「キッズスクール」11日間、延べ277人の参加は素晴らしい実績である。</li> <li>・公民館において魅力的なイベント・取組が行われ、充実している。</li> </ul>
	(3) 第2期公民館基本計画の策定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館が住民の「つどう」「まなぶ」「むすぶ」場になるように努められた。</li> <li>・公民館計画の策定が、どうしても「第一期」の見直しから始まるので、一期の手直しになる傾向が強かった。できればこれから10年の竜王のまちづくりの担い手を育てる場としての公民館であり、ここからまちづくりの発信ができる場になれば、若手のリーダーも出てくるのではないかと思われる。</li> <li>・令和5年度末において基本計画の策定ができた。地域の</li> </ul>

			コミュニティや防災の拠点となり、人づくり、地域づくりにつながるような公民館活動が望まれる。
	(4) 地域に開かれ親しまれる図書館の運営	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館がまさに地域に開かれている。来館者数もそうだが、住民の読書好き、展示コーナーの活用など素晴らしい。またユニークな企画も多数で評価できる。</li> <li>・コロナ規制が緩和され、図書館にも賑いが戻りつつある。若い親子連れや高齢の方が静かにソファに座り寛ぐ姿も多く、住民のすてきな居場所になっている。</li> <li>・いろいろと多くの取組をされ、住民の読書意欲の向上に大いに役立っている。</li> <li>・図書館と学校図書館司書との情報交換など、学校と図書館が連携し、読書指導・利用指導・環境整備の上で効果的なものとなっている。</li> <li>・開かれた図書室として、フリースペースを開放することにより、居場所づくりができ、利用が増え、本を身近に感じることもできることにもつながっている。</li> <li>・利用者数、図書の貸出冊数も多く、地域に親しまれる図書館になっている。</li> <li>・広い竜王町なので、足を運べない方も多くおられるのではないかと心配もある。</li> <li>・様々な事業に取り組みされており、継続しながら、さらに工夫をしていってほしい。</li> </ul>
	(5) 社会教育関係団体支援と人材・指導者の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年団が存続する希少な町。存続に向けて、彼らが主体となるまちづくり活動（祭りにおける若衆のような存在）などができれば仲間も集まってくるのではないかと。</li> <li>・社会教育団体も“従来通り”から脱却する必要があると感じる。</li> <li>・地域に根ざした若者の活動拠点・町青年団活動拠点については、調整のもと、居場所確保に努めていただいている。落ち着いて町独自の活動ができるよう、継続して準備していただきたい。</li> <li>・社会教育指導員を配置したり、団体活動への支援をするなど、事業のあり方を助言したりして継続的支援に努められている。会の活動や存続の価値を再確認し、人材確保や指導者の育成への努力を続けていってほしい。</li> <li>・町青年団の活動が継続できるように工夫・支援がされている。今後も存続し活動が活性化していくことを期待する。</li> </ul>
7 文化芸術の振興と文化財保護・活用の充実	(1) 文化芸術活動の奨励と振興	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館フェスタ～竜王のおひなさん～はニュースで拝見し興味深かった。</li> <li>・第40回文化祭は新しい取組もあり、たくさんの人でにぎわった。</li> <li>・公民館フェスタや交竜フロアの展示なども工夫が凝らされ、来館者の目を楽しませてくれた。</li> <li>・様々な文化芸術活動が進められ、盛大に文化祭を開催し、多くの来場者を得て文化芸術活動への町民の意欲関心を高めることができた。</li> <li>・公民館交竜フロアでは年間を通して多彩な文化芸術作品や文化財に広く触れる機会を設けているのは全体の知識</li> </ul>

			<p>教養を高めるのに役立っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者6,000人を超える文化祭を始め、様々な文化芸術活動が展開されていることは評価できる。</li> </ul>
	(2) 文化財保存活動の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勘定海路遺跡の発掘現場を小学生が現地見学し、少し難しかったが歴史に興味を持てた子も多かった。</li> <li>・「ケンケト祭り」が多くの方々の尽力により、みごとユネスコ無形文化遺産に登録されたことは大変喜ばしい。世界に誇る貴重な民俗芸能として次世代にも継承して行ってほしい。</li> <li>・ユネスコ無形文化遺産に登録された「山之上ケンケト祭り」の登録記念式典が挙行され、多くの人々の称賛を得たことは素晴らしい。</li> <li>・広報活動などを通して、他の多くの文化財の保存活動においても計画的に行い、町民の誇りとなるよう啓発して行ってほしい。</li> </ul>
	(3) 地域の歴史に親しむ機会の創出	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代にもっと広く周知できたらと考える。</li> <li>・古くから人々が営み続けてきた竜王町の歴史を、もっと授業を通して伝えられる時間がとれるとよいと思う。</li> <li>・地域の歴史文化を学び、町に親しみや誇りや愛着を持つことは、町民全体の自己肯定感を高めることにもつながる。</li> <li>・眠っている教材を掘り起こし、魅力ある教材とし、子ども達や町民の方々への学ぶ機会として多く提供して行ってほしい。</li> </ul>
8 明るく住みよいまちづくりをめざす人権教育の推進	(1) 人権尊重のまちづくりの推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重の意識づくりは目に見えないため、表面的には何事もないように見えるが、まだまだ心のどこかに差別の芽が残っている。根気よく機会あるごとに気長に続ける必要を感じる。</li> <li>・人権教育を担う主管課として他課とも連携し、地域・企業・機関・行政・学校等の各種団体など多くの方々を対象として、人権を尊重する学習を積極的に提供して行ってほしい。</li> <li>・人権教育およびその啓発の推進は大変重要な取組である。人権尊重のまちづくりのため、継続した取組が望まれる。</li> </ul>
	(2) 学校・家庭・地域・行政の連携による人権教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区別懇談会、男女共同参画集会など地域での学習機会が着実に増えた。全自治会での開催をめざされるのは評価できる。</li> <li>・いろいろと工夫をしながら人権教育の推進を模索されており評価できるが、研修会が形骸化していないか等を検証することも重要である。</li> <li>・人権教育推進協議会の円滑な運営のため、自治会と連携し、地区別懇談会など積極的に開催し、学習の機会を提供してきた。熱心に人権学習機会の提供が行われているのは評価できる。</li> <li>・各推進委員の資質向上のための研修や教材の提供など事務局として支援できている。</li> <li>・啓発冊子「しあわせはみんなのねがい」には人権教育推進への思いが詰まっている。全町民に手に取って見ても</li> </ul>

			<p>らえる工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せっかくの啓発冊子が希望者と役員への郵送にとどまったのはもったいない。</li> <li>・自治会と連携して取り組んだ地区別懇談会、男女共同参画集会の参加者が前年より大幅に増加した。継続して取り組むことが重要である。</li> </ul>
	(3) 人権意識の高揚に向けた教育・啓発の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の参加を促すため工夫されたのは評価できる。</li> <li>・参加を促すための取組は評価できる。</li> <li>・県内外の最新の研究や先進地の取組に学び、町の人権教育・啓発の内容を高めるために尽力できている。</li> <li>・セミナーも若者層の参加を促す工夫がされていて、多くの世代を対象としていく努力が見られる。</li> <li>・人権教育およびその啓発について、先進地の取組に学び取り組んでいることは評価できる。</li> </ul>
9 「する・みる・ささえる」豊かなスポーツライフの推進	(1) 町民の健康・体力向上に向けたスポーツ活動の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツリレーション祭を始め、スポーツに親しむ機会を提供する努力が続けられている。</li> <li>・「竜王町スポーツレクリエーション祭」を開催し、幅広い年齢層の町民のスポーツ活動およびレクリエーション・健康づくりの場が持て、成功したことは大変よかった。</li> <li>・各自治体でのスポーツ事業が減少していることから、スポーツ推進に向けた環境整備、興味を引き出す事業の展開など、機会の提供に心がけてほしい。</li> <li>・自治会におけるスポーツ事業のあり方の検討、見直しも必要。人口減少、ニーズも考慮に入れていくべきである。</li> </ul>
	(2) 健康増進につながる運動習慣定着に向けた取組の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操やウォーキングなど、身近にできる運動の普及に努め、運動習慣定着に向けた取組が着々とできている。</li> <li>・竜王町のラジオ体操実施地区が多いことに感心させられた。</li> <li>・ウォーキングを特別なものとせず、一日の歩数や一か月の歩数を目に見える形で評価するなどの工夫がいろいろである。</li> <li>・幼児期に必要な運動能力の基礎を培い、体力向上・運動の基礎づくりに努めることにより、生涯にわたってよりよい運動習慣につなげるよう、健康な町づくりに努めてほしい。</li> <li>・幼児期からの体力作りはこれから益々求められるのではないと思う。</li> </ul>
	(3) 第79回滋賀国民スポーツ大会に向けた準備	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツライミングが町のシンボルスポートとなるよう積極的に情報発信するなど機運醸成に取り組んでいる。</li> <li>・国スポへの準備、竜王だから取り組める。全国的に今後の国スポのあり方が課題になっている。予算の面や会場準備など。結果からS評価もありと考える。今年のBからAは妥当と考える。</li> <li>・2025年開催の滋賀国スポ障スポにおけるスポーツライミング競技の開催町として積極的に情報活動・啓発活動を行い、ボルダリングの町をPRできた。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な啓発に努めておられるが、まだまだ一般の方の興味は低いように感じられる。クライミングがもっと身近になる取組が必要なのではないかと思う。</li> <li>・小学生にも競技参加の機会として教室を開催し、裾野を広げることができた。さらなる機運醸成に努めてほしい。</li> </ul>
(4) スポーツクライミングの選手育成とドラゴンボルダリングジムの活用	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツクライミング選手の育成、計画的な練習会の実施ができており、何年か前にアドバイスさせていただいたように野口啓代選手を招いてのクリニックの開催など普及啓発にも努められたのは評価できる。</li> <li>・地元選出のアスリート育成の取組が計画的に実施できている。</li> <li>・都市部に行くとクライミングをする場所が町中であってけっこう賑わっている。竜王の施設もジムのように気軽に使う人が増えると良い。</li> <li>・施設のPRやスポーツクライミングの普及啓発に今後も努めてほしい。</li> </ul>
(5) 第2期竜王町スポーツ推進計画の具現化	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ振興計画に掲げられている「町民一人ひとりのスポーツの日常化」をめざして、各種団体と連携し、様々な事業が展開されている。今後もスポーツへの興味関心を引き出せるよう、リーダーシップを発揮して行ってほしい。</li> <li>・気候変動が激しく、なかなか屋外スポーツの日常化はハードルが高い。まずは気軽に活動ができる場を増やしてみてもどうだろう。</li> </ul>



令和6年度の事務点検・評価を踏まえた  
重点改善項目と主な改善点

# 令和6年度の事務点検・評価を踏まえた

## 重点改善項目と主な改善点

教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務 (教育行政基本方針の重点目標、重点施策に基づく事務)			
項目	小項目	評価	改善点
1 たくましく生き抜く力を育む学校教育の推進	(1) 確かな学力を育む教育の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての児童生徒の基礎学力の底上げと定着をめざし、小学校における徹底反復学習の取組の充実を図るとともに中学校においては、タブレット端末による学習支援ソフト「eライブラリ」の効果的な活用による個別最適な学びを推進する。</li> <li>徹底反復学習において、ICTを活用したデジタル百ます計算の試行的運用を行う。</li> <li>授業改善、校内研究の充実に向け、教育委員会の課員派遣による学習指導案検討や指導助言等、日常的な支援・指導に努める。</li> <li>学力・学習状況調査の分析と今後の改善・向上策について学校と共有・連携を進め、具体的な実践に取り組む。</li> </ul>
	(2) 社会を見据えた新しい学びの推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>町として小学校から中学校への接続を意識した英語学習を推進する。</li> <li>中学校英語科における「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の向上をめざした授業改善を教育委員会として支援する。</li> <li>中学校英語科教員が英語指導について、大学教員から定期的に指導助言を得ており、教育委員会としてもこうした機会の継続・拡充を支援する。</li> <li>中学校英語科の「書く」「読む」にかかる基礎的内容の確実な習得をめざす取組の充実を図る。</li> <li>ICTを活用して児童生徒が相互に学んだことや考えたこと等を情報共有したり評価したりする機会の充実を図るため、教育委員会としてI部会（ICT部会）を開催し、教員のICTをより有効に活用した授業づくりを支援する。</li> </ul>
5 心豊かでたくましい青少年の健全育成	(2) 家庭教育の教育力向上をめざす取組の充実 (3) スマホ依存度縮減にかかる啓発・取組の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年11月22日（金）には、「スマホと学力向上の相関関係」に焦点を当て、東北大学の川島隆太教授を招き、「スマホが子どもたちの学力向上を阻むこと、その改善には、早寝早起き朝ごはん等の日常での実践による規則正しい生活習慣の獲得が不可欠であること」について、豊富なエビデンスを踏まえ脳科学の視点から鋭く切り込んで、中学生を中心に、子どもたちの日常に警鐘を鳴らす“教育フォーラム2024”を開催する。</li> <li>子どもたちには「自らの夢を実現させるには、スマホとの適切な関係の定着が欠かせない」ことに気付かせ、家庭を挙げて実践へと繋げていくことをめざす。</li> <li>学校園との連携を密に、子どもたちを対象とした生活習</li> </ul>

			慣チェックやスマホ教室の実施、更には、保護者を始め地域へ啓発すべく“防災無線を活用した子どもたちからのスマホルールづくりの提案等、メッセージ発信”についても継続して取組む。
6 人生100年時代、全ての人が主人公を演じる生涯学習の推進	(3) 第2期公民館基本計画の策定	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの自主活動団体の定期利用とともに、ドラゴンカレッジ（大人の教室）やキッズクラブ（小学生の教室）、夏休みキッズスクール（小学生の短期講座）等の内容充実に努める。</li> <li>気軽に立ち寄れる公民館となるよう、玄関ホールや交産フロア等の環境整備、展示スペースやパネル展示の定期的な模様替えをしていく。</li> <li>貸館の他にも、卓球台やボードゲーム等の遊具物品の貸出しを開始することで、利用者の裾野拡大を図っていくことに努める。</li> </ul>
	(5) 社会教育関係団体支援と人材・指導者の育成	A	<p>① 青年団活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育指導員や県青連等とともに、全国的に顕著な活動をする青年団体の組織等のあり様などについて情報収集し、当町での取組に活かさないかの調査研究を進める。併せて、既存施設などの活用の可能性を継続して検討するなど、今後も団室確保に努める。</li> </ul> <p>② 地域に根差す若者活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、大学生約30名からなる若者グループ（9割が町内在住大学生）が、NPO法人化を視野に入れつつ町内での「子どもの居場所や多世代型コミュニティ」づくりをめざし具体的活動を模索している。教育委員会として、当該グループの活動に寄り添うことを心掛けつつ、互いの想いや行動を尊重する「互恵関係を育む」中で持続可能な組織として発展するよう支援を行う。</li> </ul>
9 「する・みる・ささえる」豊かなスポーツライフの推進	(1) 町民の健康・体力向上に向けたスポーツ活動の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ推進委員の出前講座の更なる周知を図り、自治会のニーズも聞き取りながら、気軽に取り組めるニュースポーツを中心にスポーツ活動の推進に努める。</li> <li>町民誰もがスポーツに親しみ楽しんでもらえるスポーツイベントの開催に向け、競技種目等について関係団体と検討し企画していく。</li> <li>6年ぶりの開催となる第50回記念町民運動会（ドラゴンピック2024）については、第50回記念大会にふさわしい大会となるよう内容の充実と積極的な参加要請に努める。</li> <li>伝統あるドラゴン元旦マラソンの開催については、町内外問わず多くの方に参加してもらえるイベントとなるよう関係団体と検討を進める。</li> </ul>